日本ロシア文学会第66回大会資料集

2016年10月22日(土)~23日(日) 北海道大学 第 66 回 (2016 年度) 定例総会・研究発表会は、来たる 10 月 22 日 (土)、23 日 (日) の両日、北海道大学にて開催されます。研究発表会では、48 件の個別発表 (A, B, C)、4 件の企画パネル (P)、併せて全 23 ブロックが設けられます。ふるってご参加ください。

以下の日程をご確認の上、事務局・大会実行委員会からの問合せメールに対し、10 月 10 日(月)までに参加予定をご返信くださるようお願いいたします(返信先: exe_conf@yaar.jpn.org)。

10月22日(土)										
開会式	09:10-09:20	人文・社	社会科学総	合教育研	f究棟(W	棟)2階	· W203 講	 髪室		
		第	1 会場	第2	2 会場	第	3 会場	第	第4会場	
		W [†]	棟 2 階	W ħ	東1階	W 7	東1階	W 棟 2 階		
		W203	3 講義室	5	教室	6番教室		W202 講義室		
	09:25-10:00	A01	ブロッ	A03	ブロッ	B01	ブロッ	A05	ブロッ	
	10:00-10:35	A02	ク①	A04	ク②	B02	ク③	A06	ク④	
研究発表	10:35-10:50	ティーブレイク								
则 九元汉	10:50-11:25	A07	ブロッ ク⑤	A10	- ブロッ - ク⑥	B03	・ブロッ ・ ク⑦	C01	ブロッ	
	11:25-12:00	A08		A11		B04		C02	ク8	
	12:00-12:35	A09		A12		B05		C03	70	
昼食・理事会	12:35-13:45			理事会	W 棟2	階 W202	講義室			
	13:50-14:25		ブロッ		ブロッ	B06	ブロッ	C04	ブロッ	
研究発表・パネル	14:25-15:00	P01	ク9	P02	ク⑪	B07	ク⑪	C05	ク⑫	
	15:00-15:35		70		7 10	B08		C06	7 112	
大賞受賞記念講演	15:50-16:50	W 棟 2 階 W203 講義室								
定例総会	16:55–18:05	W 棟 2 階 W203 講義室								
懇親会	18:45–20:45		京王プラ	ザホテル	レ1階レス	トラン	グラスシ	ーズンス	,	

10月23日(日)										
		第1会場		第 2	第2会場		第3会場		第4会場	
		W t	東 <u>1 階</u>	W t	東1階	W 棟 1 階		W 棟 2 階		
		<u>W103</u> 講義室		5 番	幹教室	6番教室		W202 講義室		
	09:00-09:35	A13	ブロッ	A16	ブロッ	B09	ブロッ			
	09:35-10:10	A14	- ク®	A17	ク⑭	B10	- ク ¹ 5	C07	ブロッ	
研究発表	10:10-10:45	A15		A18		B11		C08	ク⑯	
项 九光衣	10:45-11:00	ティーブレイク								
	11:00-11:35	A19	ブロッ	A21	ブロッ	B12	ブロッ	C09	ブロッ	
	11:35-12:10	A20	ク⑪	A22	ク18	B13	ク (19)	C10	ク20	
昼食	12:10-13:10			•	星	圣食	•			
研究発表・パネル	13:10-13:45		ブロッ		ブロッ	A23	ブロッ		_	
	13:45-14:20	P03	-	P04	ク②	A24	ク② ク③			
	14:20–14:55		ク②		7 W	A25	7 (3)			

■第1会場は1日目と2日目で場所が変わりますので、ご注意ください。

会場案内

〈受付〉1 日目:W 棟2階 W203 前ロビー 2 日目:W 棟1階 W103 前ロビー

〈控室・談話室〉同1階W104 〈書籍等販売〉同1階W104

プレシンポジウム

記憶から未来を紡ぐ 一現代ロシア文学の30年

Память создает будущее: 30 лет современной русской литературы

日時:10月21日(金)18時30分~20時30分

場所:北海道大学 人文·社会科学総合教育研究棟(W棟)6番教室

1991年、ソ連邦が崩壊し、ロシア及び旧ソ連諸国は歴史の新たな頁を綴りはじめた。ソ連崩壊のひとつのきっかけとなったのは、ちょうどその5年前、1986年に起こったチェルノブイリ原発事故である。人体に甚大な影響を及ぼす危険性のある核の事故であるにもかかわらず情報が隠蔽されたことで、ソ連政府への国民の信頼は完全に失われた。そして、前年に就任したばかりのゴルバチョフ書記長のもとで、情報公開とペレストロイカ(建て直し)が進んだ。

ペレストロイカがはじまった 1986 年、文学は当然のごとく自由を求めていた。ソ連では共同の利益が標榜される一方で、個人の自由が抑圧されていたからだ。その後も、ソ連が崩壊し、国家と社会が混乱しているあいだは、自由が謳歌されていた。では、30 年後のいまはどうか。ノーベル賞作家のアレクシエヴィチは、2015 年の『セカンドハンドの時代』の序文で、自由であることの難しさを述べ、ドストエフスキーの大審問官の問題への回帰を唱えている。

変化し続ける「現代」や「リアル」に、作家たちはどう向き合っているのか。今回のシンポジウムでは、 ソローキン、アレクシエヴィチ、トルスタヤ、ウリツカヤ、ソ連からポストソ連への移行期を体験しながら も、強度ある作品を作り続ける作家たちのいまを考察する。ソ連崩壊後30年の文学を総括しつつ、これから のロシア文学を議論してみたい。

司会:上田洋子(ゲンロン)

■報告者:

岩本和久(稚内北星学園大学):30年の間に失われたもの

ペレストロイカ以降の現代ロシア文学は言論の自由化、ポストモダニズムの隆盛、若手のリアリズム作家の登場といったいくつかの波を経験し、2015年にはベラルーシのロシア語作家アレクシエヴィチがノーベル賞を受賞した。この30年間の歩みを振り返りながら、何が獲得され、何が失われたのかを考察する。

越野剛(北海道大学):アレクシエヴィチーソ連のない世界でソ連を思い出す

2015年のノーベル文学賞受賞者スヴェトラーナ・アレクシエヴィチは、戦争や原発事故といった大きな出来事の記憶を「小さな人たちの声」を集めることで独特なかたちで表現した。主として『チェルノブイリの祈り』『セカンドハンドの時代』の2作品を中心に、ソ連解体後のロシアやベラルーシにおいてソ連の記憶がどのような意味を持っているのかを考える。

高柳聡子(東京外国語大学:日本学術振興会特別研究員):ジャンルを開拓する女性作家たち

女性作家たちは、新たな創作の可能性を模索するように、既成のジャンルへの挑戦を行っている。常にジャンルを変更するペトルシェフスカヤ、フィクションから回想へ移行したトルスタヤ、独自のジャンル設定を行うパレイ、聖と俗をひとつのジャンルに調和させるウリツカヤ、四人の代表的な作家のジャンル意識に焦点を当て、「女性文学」の現在を考える。

松下隆志(京都大学:日本学術振興会特別研究員):『テルリア』――時空間のトータル・トリップ

ロシアのポストモダン作家ウラジーミル・ソローキンの最新長編『テルリア』(2013)は、イスラム原理主義との戦争などによって細分化した二十一世紀後半のロシア・ヨーロッパを、スタイルも登場人物もまったく異なる五十の章から描き出した、内容・形式ともにきわめて野心的な作品である。本報告では、作中において顕著な「旅」や「観光」のモチーフに着目し、人や物から言語やイデオロギーまで、ありとあらゆるものの移動と混淆がもたらす世界の構造的変化について考察する。

第1日研究発表 10月22日(土)人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)

7	第 1 日 切 5 元 2 日 (上) 八文 · 任云 科子 総 日 教 目 切 元 保 (W 保) 第 1 会場 W 棟 2 階 W 203 講義室				
ブロック・日時	番号	発表者	題目	司会者	
ブロック① 10 月 22 日	A01	安野 直 ЯСУНО Сунао	エヴドキヤ・ナグロツカヤ『ディオニュソスの怒り』に おけるジェンダーイメージ Гендерные образы в романе «Гнев Диониса» Е. Нагродской	野中 進	
09:25-10:35	A02	松本隆志 МАЦУМОТО Такаси	アンドレイ・ベールイ『洗礼を受けた中国人』における 「私」の形象 Образ «Я» в романе «Крещеный Китаец» Андрея Белого	三好俊介	
	A07	小椋 彩 OGURA Hikaru	レーミゾフの虚実について(アーカイヴ調査をもとに) Remizov's Fiction and Nonfiction		
ブロック⑤ 10月22日	A08	古宮路子 КОМИЯ Митико	オレーシャ『羨望』におけるコミュニスト像の生成の問題 История становления образа коммуниста в романе Ю. Олеши «Зависть»	貝澤 哉 毛利公美	
10:50-12:35	A09	澤 直哉 CABA Haoя	「覆い」としてのことば:ウラジーミル・ナボコフ『ルージン・ディフェンス』におけるチェスと言語 Язык как прикрытие: шахматы и язык в романе «Защита Лужина» В. Набокова		
ブロック⑨ 10月22日 13:50-15:35	P01	образ повествования	кты средневековой славянской письменности: Текст, язык, кладира, миура Киёхару, ХАТТОРИ Фумиаки, МИТАНИ Кэйко	МИТАНИ Кэйко	
		·	52会場 W棟1階5番教室		
ブロック・日時	番号	発表者	題目	司会者	
ブロック② 10月22日	A03	SIM Ji Eun	Эхо Пушкина в Корее: стихи «Если жизнь тебя обманет» и парикмахерские картинки	鳥山祐介	
09:25-10:35	A04	CHA Jhee Won	Два портрета: вопрос о моральности в искусстве	飯田梅子	
	A10	АЛЕКСАНДРОВ Александр	Роль медиа в появлении первых музеев им. Л.Н. Толстого: японские материалы в Толстовском музее в Петербурге		
ブロック⑥ 10月22日	A11	АЛЕКСАНДРОВА Эльмира	Отблески Андрея Белого в портретах некоторых персонажей Газданова	乗松亨平 木村 崇	
10:50-12:35	A12	HSIUNG Tsung-huei	Чужие слова как коллаж из «следов» культурной памяти: О художественном методе в «Поэме без героя» Анны Ахматовой		
ブロック⑩ 10月22日 13:50-15:35	P02	する 神岡理恵子, 生熊源 Московский концепт	プチュアリズム:活動とその理論化の「はじまり」を再考 一,河村彩,鈴木佑也 гуализм: о «начале» его движения и теоризации ИКУМА Гэнъити, КАВАМУРА Ая, СУДЗУКИ Юя	鈴木佑也	
第3会場 W棟1階6番教室					
ブロック・日時	番号	発表者	題目	司会者	
ブロック③ 10月22日 09:25-10:35	B01	光井明日香 MITSUI Asuka	ロシア語の性に関するいわゆる意味的一致における素性 のあり方をめぐって Semantic agreement and its determining factors of gender agreement in Russian	秋山真一 堤 正典	

	B02	中野悠希 НАКАНО Юки	ロシア語の斜格形と再帰代名詞との照応に関する「主体」の影響について Влияние «субъекта» на формы косвенных падежей в связи с их анафорическим соотношением с возвратным местоимением	
	В03	福安佳子 ФУКУЯСУ Ёсико	『エヴゲーニー・オネーギン』における «судьба» 及びその類義語の日本語訳について Слово «судьба» и его синонимы в «Евгении Онегине» и их перевод на японский язык	
ブロック⑦ 10月22日 10:50-12:35	B04	有信優子 ARINOBU Yuko	露日語の訳出行為におけるシフトの分析 —Павел Санаев 著 «Похороните меня за плинтусом» の翻訳実践報告 Analysis of Translation Shifts in the Act of Translating from Russian to Japanese— Translation of "Bury Me Behind The Baseboard" by Pavel Sanaev	柳町裕子 黒岩幸子
	B05	佐山豪太 САЯМА Гота	放射状カテゴリーを用いた語彙力の増加 - 応用・認知言語学的な観点からの接頭辞 про-の分析について Увеличение словарного запаса с использованием радиальной категории – Об анализе префикса про- с точки зрения прикладной и когнитивной лингвистики –	
	B06	КАТО Юри, АБЫЯКАЯ Олеся	Ошибки японцев в речи на русском языке	
ブロック⑪ 10月22日 13:50-15:35	B07	山田久就 YAMADA Hisanari	SCORM 形式の小テストの作成について Creating SCORM-based quizzes	浦井康男 堤 正典
	B08	清沢紫織 КИЁСАВА Сиори	現代標準ベラルーシ語の2つの規範をめぐって К вопросу о двух нормах современного белорусского литературного языка	
		第	4 会場 W 棟 2 階 W202 講義室	
ブロック・日時	番号	発表者	題目	司会者
ブロック④	A05	関 岳彦 SEKI Takehiko	ョシフ・ブロツキーにおける彫像 Statues in the poetry of Joseph Brodsky	
10月22日 09:25-10:35	A06	小澤裕之 ОДЗАВА Хироюки	魔法使いの弟子:ハルムス作品における未来派の形象 Ученик чародея: образ футуриста в произведениях Даниила Хармса	岩本和久 八木君人
ブロック® 10月22日 10:50-12:35	C01	山口涼子 ЯМАГУТИ Рёко	ロシアの恋愛の魔術における「両親の拒絶」というモチーフ Мотив отречения от родителей в русских любовных заговорах	
	C02	細川瑠璃 XOCOKABA Рури	フロレンスキイの数 Числа Флоренского	村田真一 塚崎今日子
	C03	内田健介 УТИДА Кэнсукэ	スタニスラフスキー・システムのポドテクスト «Подтекст» в системе Станиславского	

	C04	村山久美子 MURAYAMA Kumiko	マリウス・プティパのバレエの実像 The real images of ballets created by Marius Petipa	
ブロック⑫ 10月22日 13:50-15:35	C05	三浦領哉 МИУРА Рэия	初期「グリンカ期」におけるオドーエフスキーの音楽思想 ー作曲家グリンカとの関わりをめぐって Мысль о музыке В.Ф. Одоевского в начале «Глинкинского периода» – вокруг его отношения с М.И. Глинкой	伊東一郎 高橋健一郎
	C06	神竹喜重子 КАМИТАКЭ Киэко	モノ・オペラ《アンネの日記》—ナチス時代の少女を描く 「現代音楽」 Моноопера «Дневник Анны Франк»—«современная музыка», описывающая девушку в эпоху нацизма	

第3回日本ロシア文学会大賞受賞記念講演

10月22日(土) 15:50-16:50 W棟2階W203講義室

受賞講演者	講演題目
諫早勇一	意外性、そして偶然性―ロシアへの道―
ISAHAYA Yuichi	Unexpectedly, by Chance: My Way to Russia

第2日研究発表 10月23日(日)人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)

第 1 会場 W 棟 1 階 W103 講義室				
ブロック・日時	番号	発表者	題目	司会者
	A13	田中沙季 ТАНАКА Саки	Ф.М. ドストエフスキー『罪と罰』のエピローグにおける語り 手の問題 Повествователь эпилога романа «Преступление и наказание» Ф.М. Достоевского	
ブロック③ 10月23日 09:00-10:45	A14	樋口稲子 ХИГУТИ Инэко	「大審問官」と『カラマーゾフの兄弟』における構成と構成要素 Конструкция и составные элементы в «легенде о Великом Инквизиторе» и в романе «Братья Карамазовы»	齋藤陽一 鈴木淳一
	A15	齋須直人 САИСУ Наохито	ドストエフスキーの作品における若いニヒリストたちの精神 的導き手について Духовные наставники молодых нигилистов в творчестве Ф.М. Достоевского	
ブロック⑰	A19	田子卓子 ТАГО Такако	ミメーシスとブーニンの作品(1910年代)における物語の作法 Тема мимесиса (подражание искусства действительности) в творчестве И.А.Бунина 1910-х гг.	野中進
10 月 23 日 11:00-12:10	A20	古川 哲 FURUKAWA Akira	プラトーノフ『秘められた人間』におけるロシア内戦期のロシア南部およびカフカスの表象について The representation of Sothern Russia and Caucasus in the period of Russian Civil War in Andrei Platonov's "The Innermost Man"	宮川絹代
ブロック② 10月23日 13:10-14:55	P03	Трогать, видеть, слушать: новые подходы к новой литературе (на примере Маканина, Пригова и Алексиевич) МОТИДЗУКИ МОТИДЗУКИ Тецуо, ВЬЮГИН Валерийн, ТЯН Хунминь, ЛИ Чжи Ен, КОСИНО Тецуо		

プロック・日時 番号	第 2 会場 W 棟 1 階 5 番教室					
Ali	ブロック・日時	番号	発表者	題目	司会者	
10月23日		A16				
### AHB ### Toucroro offerp Первый 日本	_		ŭ		中村唯史	
Als Balol Tith		A17				
Bailepini	09:00-10:45	A 1 Q	ВЬЮГИН	Советские кино/литературные репрезентации шпионажа в		
A21 KAHAJASABA TONOO BOANJAMINATE Hara Process Harrowall Hara Process Harrowall Hara Roysumumate Hara Roy		Alo	•	конспирологической перспективе		
10月23日 11:00-12:10 A22		4.21		近代ロシア文学における「気球」		
10月23日 11:00-12:10 A22 坂中紀夫	ブロック®	A21		Воздушный шар в новой русской литературе	長公川音	
A22 CAKAHAKA Hopido Hopido Acertacio caturigas - Huas Roysunsia Huas no si oбраз первого в советской литеритуре частного сащива - Huas Roysunsia Huas Roysuns				ニコライ・シパーノフとソ連初の私立探偵のイメージ		
プロック② 10 月 23 日 13:10-14:55	11:00-12:10	A22		Николай Шпанов и образ первого в советской литературе		
サイド電			•	**		
10 月 23 日 13:10-14:55 PO4 O6 автобнографическом описании в русской культуре в первой половине XX века НАКАМУРА Таваеки, НАГУРА Юри, ОХИРА Ёнти, ТАКЕДА Акифуми, УМЭЦУ Норио, ЯГИ Наото 第 3 会場 W 棟 1 階 6 番数室 プロック・日時 番号 発表者 題 目 司会者 BO9 MИЯУТИ Такуя русском языке: рассмотрение путем связывания ロシア語における関係節の統語構造: 束縛現象からの考察 ОПИТАКСИЧСКАЯ СТИТАКСИЧСКАЯ СТРУКТУРА ОПИТАКСИЧСКАЯ СТРУКТУРА ОПИТАКСИЧСКАЯ СТРУКТУРА ОТИТАКСИЧСКАЯ ОТОТОТИТАКСИЧЕ ОТИТАКСИЧЕ ОТИТАКСИ ОТИТАКСИЧЕ ОТИТАКСИ ОТИТАКСИЧЕ ОТИТАКСИЧЕ ОТИТАКСИ ОТИТАКСИЧЕ ОТИТАКСИ О	-*					
13:10-14:55 HAKAMYPA Тадаси, НАГУРА Юри, ОХИРА Ёнги, ТАКЕДА Авифуми, УМЭЦУ Норио, ЯТИ Наого	_	DO4			H ++ 114: H	
第3会場 W 棟 1 階 6 番教室 プロック・日時 番号 発表者 題 目 司会者 B09 MUNYTU Takya ロシア語における関係節の統語構造: 束縛現象からの考察 Chitakeurleekas cripkrypa orthocutrenshoro предложения в русском языке: рассмотрение путем связывания 10月23日 09:00-10:45 B11 後藤雄介 GOTO Yusuke		P04			中们框文	
プロック・日時 番号 発表者 題 目 司会者 BO9	13.10 14.33					
宮内拓也 ロシア語における関係節の統語構造: 束縛現象からの考察 Cинтаксическая структура относительного предложения в русском языке: рассмотрение путем связывания ロシア語統語研究のためのイントネーションの上昇・下降のモデル化 MogratipoBahue повышения и понижения интонации для изучения русского синтаксиса ロシア語における民族形容詞の統語的特徴をめぐって Some Remarks on the Syntactic Property of Russian Ethnic Adjectives 不完了体一般的事実の意味とアクショナルな意味一потому что が用いられた構文を例に				第3会場 W棟1階6番教室		
B09 M// Takya	ブロック・日時	番号	発表者	題目	司会者	
Takya		B09	宮内拓也	ロシア語における関係節の統語構造: 束縛現象からの考察		
世刊彰規				Синтаксическая структура относительного предложения в		
10月23日 10月23日 10月23日 10月23日 10月23日 10月23日 10月23日 11:00-12:10 10月23日 11:00-12:10 10月23日 10月23日 11:00-12:10 10月23日 11:101-14:55 10月23日 10月23			Такуя	русском языке: рассмотрение путем связывания		
10月23日 09:00-10:45 B10 C3PM Aкинори Aкинори Moделирование повышения и понижения интонации для	 ブロック(5)	B10	世利彰規			
B11 接藤雄介 GOTO Yusuke ロシア語における民族形容詞の統語的特徴をめぐって Some Remarks on the Syntactic Property of Russian Ethnic Adjectives 「恒任翔吾 ILIVHЭТО Cëro				· ,-		
B11 佐藤雄介 GOTO Yusuke Some Remarks on the Syntactic Property of Russian Ethnic Adjectives 不完了体一般的事実の意味とアクショナルな意味一noromy что が用いられた構文を例に一 O6皿検索ボロΨεCKOE значение и акциональное значение HCB в предложениях с союзом nomoму что	09:00-10:45		Акинори		岩原宏于	
B11 GOTO Yusuke GOTO Yusuke GOTO Yusuke GOTO Yusuke Adjectives 「位任翔吾 IIVHЭТО Cëro		B11	W III A	ロシア語における民族形容詞の統語的特徴をめぐって		
Tロック③				Some Remarks on the Syntactic Property of Russian Ethnic		
10 月 23 日			GOTO Yusuke	-		
B12			恒任翔吾			
Tay 23 日 Tay 23 日 11:00-12:10 B	ブロック①	B12	ЦУНЭТО			
B13 ONDA Yoshinori	_		Сёго	-		
The predicative participles and the verbs in Old Russian 日本記			恩田義徳		秋山真一	
「ロック②		B13				
A23 ХОРИКОСИ Произведения А.С. Пушкина после путешествия по Кавказу и Крыму ЖДАНОВ Владимир 鈴木淳一 СУДЗУКИ Дзюнъити 梅村博昭 Р.С.カーツ『ソ連 SF 史』の文学的意義と余波 А25 УМЭМУРА «История советской фантастики» Р.С. Каца. Ее литературное Крыму 坂庭淳史 中野幸男 坂庭淳史 中野幸男 大阪庭淳史 大阪庭淳史 中野幸男 大阪庭淳史 大阪庭彦史 大阪庭淳史 大阪庭彦史 大阪藤子 大阪庭彦史 大阪庭彦史 大阪庭彦史 大阪藤子						
プロック② 10 月 23 日 13:10-14:55 A24		Δ22				
ブロック③ 10 月 23 日 13:10-14:55 A24		AZS				
ブロック② 10 月 23 日 13:10-14:55 A24				* *		
10 月 23 日 13:10-14:55 A24 鈴木淳一 Открытие М. Булгакова и О. Манделыштама в СССР 中野幸男 日 13:10-14:55 A24 鈴木淳一 СУДЗУКИ Дзюнъити 梅村博昭 P.C.カーツ『ソ連 SF 史』の文学的意義と余波 A25 УМЭМУРА «История советской фантастики» Р.С. Каца. Ее литературное	ブロック23		-		坂庭淳中	
13:10-14:55 CУДЗУКИ Дзюньити 株村博昭 A25 УМЭМУРА «История советской фантастики» Р.С. Каца. Ее литературное		A24		Открытие М. Булгакова и О. Мандельштама в СССР		
梅村博昭 P.C.カーツ『ソ連 SF 史』の文学的意義と余波 A25 УМЭМУРА «История советской фантастики» Р.С. Каца. Ее литературное	13:10-14:55					
А25 УМЭМУРА «История советской фантастики» Р.С. Каца. Ее литературное				PCカーツ『ソ連 SE 中』の立学的音差レ今連		
		A25				
		1123	Хироаки	значение и отзвуки		

	第 4 会場 W 棟 2 階 W202 講義室				
ブロック・日時	番号	発表者	題目		
ブロック® 10月23日	C07	畔栁千明 КУРОЯНАГИ Тиаки	イアキンフ・ビチューリンと中国文化 Иакинф Бичурин и китайская культура	中澤敦夫	
09:35-10:45	C08	塚田 力 ЦУКАДА Цутому	シャベリスキー - ボルクの歴史物語『預言修道士』をめぐって О историческом сказании «Вещий инок» Шабельского-Борка	望月哲男	
ブロック②	C09	宮崎衣澄 МИЯДЗАКИ Идзуми	「東京復活大聖堂(ニコライ堂)のイコノスタシス・プログラムをめぐって」 Иконографическая программа первого иконостаса в соборе Воскресения Христова в Токио	北見論	
10月23日 11:00-12:10	渡辺 圭 C10 ВАТАНАБЭ Кэй		府主教アントニイ・フラポヴィツキイの讃名派駁論:「心理主義」の宗教思想 Опровержение имяславия Митрополитом Антонием (Храповицким): Религиозная мысль «психологизма»	宇佐美森吉	

会場校からのお知らせ

【大会実行委員会へのお問い合わせ】

北海道大学文学研究科

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目

(望月恒子研究室) 電話 011-706-3050 E-mail: mtsuneko@let.hokudai.ac.jp

(大西郁夫研究室) 電話 011-706-4090 E-mail: ions@let.hokudai.ac.jp

【宿泊・昼食その他】

- ・宿泊先の手配は会員各自でお願い致します。札幌のホテルは予約しづらくなっておりますので、早めの予約を是非お願い致します。北大・札幌駅近辺以外でも地下鉄沿線ならそれほど不便ではありません。南北線沿線ですと乗換が不要です。
- ・22 日 23 日ともに、学内の中央食堂 1 階(カフェテリア方式)、2 階購買店が営業しています。22 日はクラーク会館食堂も営業しています。また札幌駅まで(徒歩 10 分程度)出ますと地下食堂街があります。
- ・お車でのご来場はご遠慮ください。

【会場校までの交通機関等】

・北大最寄りの駅からのご案内

JR 線をご利用の場合

札幌駅北口から構内まで(徒歩約7分)

地下鉄南北線をご利用の場合

さっぽろ駅から構内まで (徒歩約10分)

北 12 条駅から構内まで (徒歩約 4分)

地下鉄東豊線をご利用の場合

さっぽろ駅から構内まで (徒歩約10分)

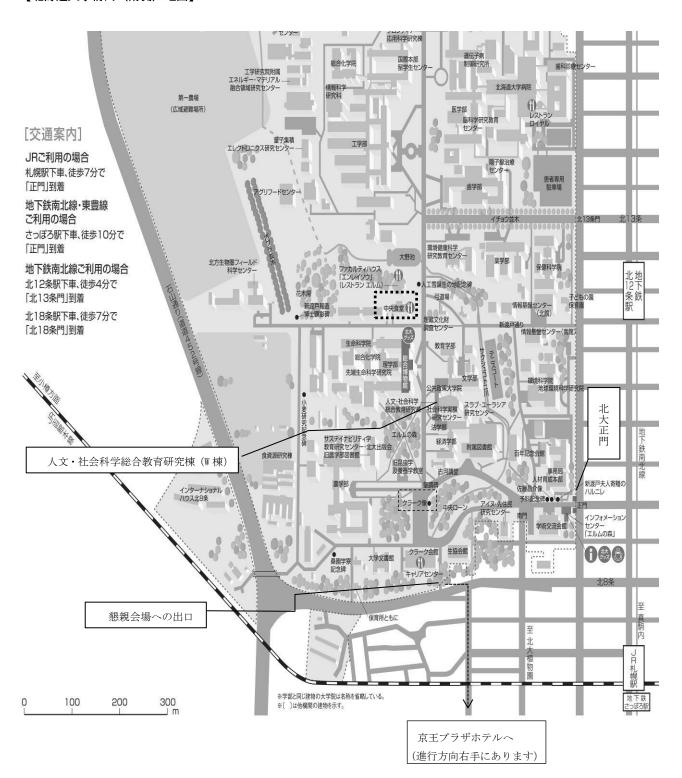
北 13 条東駅から構内まで (徒歩約 15 分)

新千歳空港から札幌駅までのアクセス

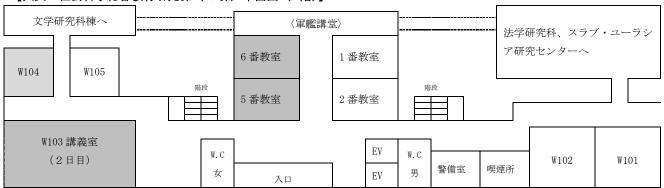
JR 線 快速エアポート 約 40 分

バス(中央バス・北都交通) 札幌都心行 約1時間10分

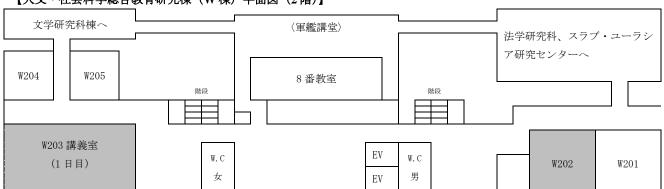
【北海道大学構内(南側)地図】



【人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)平面図(1階)】



【人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)平面図(2階)】



【会場説明】

 〈受付〉
 (1日目)人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)
 2階
 W203 講義室前ロビー

 (2日目)同上
 1階
 W103 講義室前ロビー

〈控室・談話室〉 同1階 W104講義室

〈書籍等販売〉 同上

〈発表会場〉 第1会場 1日目 (W203 講義室) : 開会式, 大賞受賞記念講演, 定例総会, ブロック①, ⑤, ⑨

2 日目 (W103 講義室) : ブロック⑬, ⑰, ㉑

第2会場(W棟5番教室):ブロック②,⑥,⑩,⑭,⑭,®,②

第3会場(W棟6番教室):ブロック③,⑦,⑩,⑲,⑳

第4会場(W202講義室):理事会,ブロック④,⑧,⑫,⑯,⑩

〈定例総会〉 第1会場(W203講義室)

〈大賞受賞記念講演〉 第1会場(W203講義室)

懇親会のご案内

目時:10月22目(土)18時45分~20時45分

場所:京王プラザホテル1階レストラン グラスシーズンズ

会費:常勤職 7,000 円 常勤職以外・大学院生・外国人 3,000 円

☆ご出欠のお知らせを 10 月 10 日までにお願いします (exe_conf@yaar.jpn.org)。

 $\triangle W$ 棟を出て左手→クラーク像→クラーク会館左手→生協会館右脇の車止めのある小さい出口→左手信号を渡って直進→JR 高架を抜ける→右手前方に京王プラザホテル(徒歩約 15 分)

日本ロシア文学会第 66 回研究発表会 報告要旨集

A01	安野 直	エヴドキヤ・ナグロツカヤ『ディオニュソスの怒り』におけるジェンダーイメージ
A02	松本隆志	アンドレイ・ベールイ『洗礼を受けた中国人』における「私」の形象
A03	SIM Ji Eun	Эхо Пушкина в Корее: стихи «Если жизнь тебя обманет» и парикмахерские картинки
A04	CHA Jhee Won	Два портрета: вопрос о моральности в искусстве
A05	関 岳彦	ヨシフ・ブロツキーにおける彫像
A06	小澤裕之	魔法使いの弟子:ハルムス作品における未来派の形象
A07	小椋 彩	レーミゾフの虚実について (アーカイヴ調査をもとに)
A08	古宮路子	オレーシャ『羨望』におけるコミュニスト像の生成の問題
A09	澤直哉	「覆い」としてのことば:ウラジーミル・ナボコフ『ルージン・ディフェンス』におけるチェスと言語
A10	АЛЕКСАНДРО	ОВ Александр
		Роль медиа в появлении первых музеев им. Л.Н. Толстого: японские материалы в Толстовском музее в
		Петербурге
A11	АЛЕКСАНДРО	DBA Эльмира
		Отблески Андрея Белого в портретах некоторых персонажей Газданова
A12	HSIUNG Tsung	r-huei
		Чужие слова как коллаж из «следов» культурной памяти: О художественном методе в «Поэме без героя» Анны
		Ахматовой
A13	田中沙季	Φ.M. ドストエフスキー『罪と罰』のエピローグにおける語り手の問題
A14	樋口稲子	「大審問官」と『カラマーゾフの兄弟』における構成と構成要素
A15	齋須直人	ドストエフスキーの作品における若いニヒリストたちの精神的導き手について
A16	PARK Sun Yung	д Собор и музей: о концепции культуры О. Мандельштама и А. Сокурова
A17	АКИМОВА Ан	на
		О выборе основного источника первой книги романа А.Н. Толстого «Петр Первый»
A18	ВЬЮГИН Вало	ерий
		Советские кино/литературные репрезентации шпионажа в конспирологической перспективе
A19	田子卓子	ミメーシスとブーニンの作品(1910年代)における物語の作法
A20	古川 哲	プラトーノフ『秘められた人間』におけるロシア内戦期のロシア南部およびカフカスの表象について
A21	金沢友緒	近代ロシア文学における「気球」
A22	坂中紀夫	ニコライ・シパーノフとソ連初の私立探偵のイメージ
A23	堀越しげ子	『コーカサスの捕虜』論
A24	ЖДАНОВ Вла,	димир,鈴木淳一
		ソ連時代における M.ブゥルガーコフと O.マンデリシタームの発見
A25	梅村博昭	P.C.カーツ『ソ連 SF 史』の文学的意義と余波
B01	光井明日香	ロシア語の性に関するいわゆる意味的一致における素性のあり方をめぐって
B02	中野悠希	ロシア語の斜格形と再帰代名詞との照応に関する「主体」の影響について
B03	福安佳子	『エヴゲーニー・オネーギン』における «судьба» 及びその類義語の日本語訳について
B04	有信優子	露日語の訳出行為におけるシフトの分析—Павел Санаев 著 «Похороните меня за плинтусом» の翻訳実践報告
B05	佐山豪太	放射状カテゴリーを用いた語彙力の増加 -応用・認知言語学的な観点からの接頭辞 npo-の分析について-

B06	КАТО Юри, А	КАТО Юри, АБЫЯКАЯ Олеся						
		Ошибки японцев в речи на русском языке						
B07	山田久就	SCORM 形式の小テストの作成について						
B08	清沢紫織	現代標準ベラルーシ語の2つの規範をめぐって						
B09	宮内拓也	ロシア語における関係節の統語構造: 束縛現象からの考察						
B10	世利彰規	ロシア語統語研究のためのイントネーションの上昇・下降のモデル化						
B11	後藤雄介	ロシア語における民族形容詞の統語的特徴をめぐって						
B12	恒任翔吾	不完了体一般的事実の意味とアクショナルな意味— потому что が用いられた構文を例に—						
B13	恩田義徳	OR における述語的用法の分詞と述語動詞の関係について						
C01	山口涼子	ロシアの恋愛の魔術における「両親の拒絶」というモチーフ						
C02	細川瑠璃	フロレンスキイの数						
C03	内田健介	スタニスラフスキー・システムのポドテクスト						
C04	村山久美子	マリウス・プティパのバレエの実像						
C05	三浦領哉	初期「グリンカ期」におけるオドーエフスキーの音楽思想-作曲家グリンカとの関わりをめぐって						
C06	神竹喜重子	モノ・オペラ《アンネの日記》—ナチス時代の少女を描く「現代音楽」						
C07	畔栁千明	イアキンフ・ビチューリンと中国文化						
C08	塚田 力	シャベリスキー - ボルクの歴史物語『預言修道士』をめぐって						
C09	宮崎衣澄	東京復活大聖堂(ニコライ堂)のイコノスタシス・プログラムをめぐって						
C10	渡辺 圭	府主教アントニイ・フラポヴィツキイの讃名派駁論:「心理主義」の宗教思想						
P01	中世スラヴテ	クストのダイナミズム テクスト、言語、語りのスタイル						
		(ウジャンコフ アレクサンドル、三浦清美、服部文昭、三谷惠子)						
P02	モスクワ・コ	ンセプチュアリズム:活動とその理論化の「はじまり」を再考する						
		(神岡理恵子、生熊源一、河村彩、鈴木佑也)						
P03	Трогать, видет	ть, слушать: новые подходы к новой литературе (на примере Маканина, Пригова и Алексиевич)						
		(МОТИДЗУКИ Тецуо, ВЬЮГИН Валерий, ТЯН Хунминь, ЛИ Чжи Ен, КОСИНО Го)						
P04	20 世紀前半の	ロシア文化における自叙の問題						
		(中村唯史、奈倉有里、大平陽一、武田昭文、梅津紀雄、八木君人)						

日本ロシア文学会

2016年10月

Abstracts of Research Papers Accepted for Presentation at the 66th Annual Assembly of the Japan Association for the Study of Russian Language and Literature

	•	•
A01	Сунао ЯСУНО	Гендерные образы в романе «Гнев Диониса» Е. Нагродской
A02	Такаси МАЦУМОТО	Образ «Я» в романе «Крещеный Китаец» Андрея Белого
A03	Чжи Ын СИМ	Эхо Пушкина в Корее: стихи «Если жизнь тебя обманет» и парикмахерские картинки
A04	Чжи Вон ЧА	Два портрета: вопрос о моральности в искусстве
A05	Takehiko SEKI	Statues in the poetry of Joseph Brodsky
A06	Хироюки ОДЗАВА	Ученик чародея: образ футуриста в произведениях Даниила Хармса
A07	Hikaru OGURA	Remizov's Fiction and Nonfiction
A08	Митико КОМИЯ	История становления образа коммуниста в романе Ю. Олеши «Зависть»
A09	Наоя САВА	Язык как прикрытие: шахматы и язык в романе «Защита Лужина» В. Набокова
A10	Александр АЛЕКСАН	ДРОВ
		Роль медиа в появлении первых музеев им. Л.Н. Толстого: японские материалы в
		Толстовском музее в Петербурге
A11	Эльмира АЛЕКСАНДІ	POBA
		Отблески Андрея Белого в портретах некоторых персонажей Газданова
A12	Цзун-хуэй СЮН	Чужие слова как коллаж из «следов» культурной памяти: О художественном методе в
		«Поэме без героя» Анны Ахматовой
A13	Саки ТАНАКА	Повествователь эпилога романа «Преступление и наказание» Ф.М. Достоевского
A14	Инэко ХИГУТИ	Конструкция и составные элементы в «легенде о Великом Инквизиторе» и в романе
		«Братья Карамазовы»
A15	Наохито САИСУ	Духовные наставники молодых нигилистов в творчестве Ф.М. Достоевского
A16	Сун Юн ПАК	Собор и музей: о концепции культуры О. Мандельштама и А. Сокурова
A17	Анна АКИМОВА	О выборе основного источника первой книги романа А.Н. Толстого «Петр Первый»
A18	Валерий ВЬЮГИН	Советские кино/литературные репрезентации шпионажа в конспирологической
		перспективе
A19	Такако ТАГО	Тема мимесиса (подражание искусства действительности) в творчестве И.А. Бунина 1910-х
		IT.
A20	Akira FURUKAWA	The representation of Sothern Russia and Caucasus in the period of Russian Civil War in Andrei
		Platonov's "The Innermost Man"
A21	, ,	Воздушный шар в новой русской литературе
A22	Норио САКАНАКА	Николай Шпанов и образ первого в советской литературе частного сыщика - Нила
		Кручинина
A23	Сигэко ХОРИКОСИ	Произведения А.С.Пушкина после путешествия по Кавказу и Крыму
A24	Владимир ЖДАНОВ,	
		Открытие М. Булгакова и О. Мандельштама в СССР
	Хироаки УМЭМУРА	«История советской фантастики» Р.С. Каца. Ее литературное значение и отзвуки
B01	Asuka MITSUI	Semantic agreement and its determining factors of gender agreement in Russian
B02	Юки НАКАНО	Влияние «субъекта» на формы косвенных падежей в связи с их анафорическим
		соотношением с возвратным местоимением
B03	Ёсико ФУКУЯСУ	Слово «судьба» и его синонимы в «Евгении Онегине» и их перевод на японский язык
B04	Yuko ARINOBU	Analysis of Translation Shifts in the Act of Translating from Russian to Japanese— Translation of
		"Bury Me Behind The Baseboard" by Pavel Sanaev
В05	Гота САЯМА	Увеличение словарного запаса с использованием радиальной категории – Об анализе
.	TO 16/20 5	префикса про- с точки зрения прикладной и когнитивной лингвистики –
B06	Юри КАТО, Олеся АБ	
D.C.	TT	Ошибки японцев в речи на русском языке
B07	Hisanari YAMADA	Creating SCORM-based quizzes

B08	Сиори КИЁСАВА	К вопросу о двух нормах современного белорусского литературного языка
B09	Такуя МИЯУТИ	Синтаксическая структура относительного предложения в русском языке: рассмотрение
		путем связывания
B10	Акинори СЭРИ	Моделирование повышения и понижения интонации для изучения русского синтаксиса
B11	Yusuke GOTO	Some Remarks on the Syntactic Property of Russian Ethnic Adjectives
B12	Сёго ЦУНЭТО	Общефактическое значение и акциональное значение НСВ в предложениях с союзом
		потому что
B13	Yoshinori ONDA	The predicative participles and the verbs in Old Russian
C01	Рёко ЯМАГУТИ	Мотив отречения от родителей в русских любовных заговорах
C02	Рури ХОСОКАВА	Числа Флоренского
C03	Кэнсукэ УТИДА	«Подтекст» в системе Станиславского
C04	Kumiko MURAYAMA	The real images of ballets created by Marius Petipa
C05	Рэия МИУРА	Мысль о музыке В.Ф. Одоевского в начале «Глинкинского периода» – вокруг его
		отношения с М.И. Глинкой
C06	Киэко КАМИТАКЭ	Моноопера «Дневник Анны Франк»—«современная музыка», описывающая девушку в
		эпоху нацизма
C07	Тиаки КУРОЯНАГИ	Иакинф Бичурин и китайская культура
C08	Цутому ЦУКАДА	О историческом сказании «Вещий инок» Шабельского-Борка
C09	Идзуми МИЯДЗАКИ	Иконографическая программа первого иконостаса в соборе Воскресения Христова в Токио
C10	Кэй ВАТАНАБЭ	Опровержение имяславия Митрополитом Антонием (Храповицким) : Религиозная мысль
		«психологизма»

- **Р01** Динамические аспекты средневековой славянской письменности: Текст, язык, образ повествования (Александр УЖАНКОВ, Киёхару МИУРА, Фумиаки ХАТТОРИ, Кэйко МИТАНИ)
- Р02 Московский концептуализм: о «начале» его движения и теоризации (Риэко КАМИОКА, Гэнъити ИКУМА, Ая КАВАМУРА, Юя СУДЗУКИ)
- **Р03** Трогать, видеть, слушать: новые подходы к новой литературе (на примере Маканина, Пригова и Алексиевич) (Тецуо МОТИДЗУКИ, Валерий ВЬЮГИН, Хунминь ТЯН, Чжи Ен ЛИ, Го КОСИНО)
- **Р04** Об автобиографическом описании в русской культуре в первой половине XX века (Тадаси НАКАМУРА, Юри НАГУРА, Ёити ОХИРА, Акифуми ТАКЕДА, Норио УМЭЦУ, Наото ЯГИ)

JASRLL

October 2016

以下の研究報告要旨は著者に無断で 引用できない。

Not for quotation without the author's agreement.

【A01】エヴドキヤ・ナグロツカヤ『ディオニュソス の怒り』におけるジェンダーイメージ

安野 直

本発表では、エヴドキヤ・ナグロツカヤ (1866~1930) の長編『ディオニュソスの怒り Гнев Диониса』 (1910) を対象として、作品内における登場人物の社会的に構築される性の形象=ジェンダーイメージの様相を明らかにする。

ナグロツカヤは、「ロシア女性大衆小説」と呼ばれる 潮流の作家である。ロシア女性大衆小説とは、大衆文学 の中でも、主に1905年以降の検閲の緩和以降に多く出現 し、恋愛や性を主題とし、センセーショナルかつ煽動的 な作風を特徴としている。とりわけ、ナグロツカヤはア ナシタシヤ・ヴェルビツカヤに次ぐ、ベストセラー作家 であるといえる。なかでも、彼女のデビュー作である『ディオニュソスの怒り』は1917年までに10版を重ねるヒット作となった。

当時のロシアは、革命的機運の中、女性解放運動、女性雑誌、文学等において、いかに旧体制とは異なった「新しい女性」を創出するかが課題となっていた。ゆえに、作品内の性表象を検討することは、作品研究において最重要の課題であるといえる。

本発表では、当時ロシアで大きな影響力をもっていた オットー・ヴァイニンガーの性愛めぐる言説や、アレク サンドラ・コロンタイの批評『新しい女性』や創作等を 参照する。ナグロツカヤの作品において提示されるジェ ンダーイメージと同時代の他の作品との異同を検討し、 ナグロツカヤの創作の特質に迫りたい。

この時期の女性文学研究は、主に 1970 年代以降活発 となった欧米のフェミニズム批評を契機として徐々に増 えてきており、ロシア本国においても 2000 年代以降活発 化している。女性大衆小説に関していえば、近年ではト ヴェリ国立大学を中心に研究が発展してきており、2014 年にはモスクワ国立大学にてナグロツカヤに関する学位 論文が提出された。この論文は、様々な視点から作品を 論じた優れた研究ではあるが、ジェンダー的視点からの 考察が不足していると言わざるを得ない。また、他の研 究においてもナグロツカヤに関しては、短い部分的な言 及にとどまっている。しかし、ナグロツカヤは最も大衆 に読まれた作家のひとりであり、当時の大衆女性に大き な影響を与えたことは言うまでもない。ナグロツカヤの 作品読解を通して、時代毎に変化していく「性」の表象 が、大衆文学においてはどのように描かれていたのか、 その一端を明らかにする。

(やすの すなお, 早稲田大学院生)

【A02】アンドレイ・ベールイ『洗礼を受けた中国人』 における「私」の形象

松本 隆志

本発表ではアンドレイ・ベールイの連作『叙事詩』シ リーズ三作品における「私」という形象に注目して、こ の連作に含まれる小説『洗礼を受けた中国人』 (1921) を読み解くことを試みる。

ベールイは 1910 年代後半から自伝的長篇小説シリーズの構想に取り組んだ。当初『わが生涯』と名づけられ、後に『叙事詩』と改められたこの未完の連作構想からは、『洗礼を受けた中国人』のほかに、『コーチク・レターエフ』(1917-1918)と『奇人の手記』(1922)が生まれている。これらの三作品には最初の雑誌掲載時にいずれも作者ベールイの署名のある序文が付けられており(単行本化に際しては削除されたり別の序文に書き換えられたりしている)、そこでは必ず作品の「虚構性」が言及されている。

たとえば、『コーチク・レターエフ』と『洗礼を受けた中国人』の序文では、ベールイは作中人物の造形などの「素材」が自分の実体験であるとしつつ、作品自体はあくまでもフィクションであることに読者の注意を促している。また『叙事詩』シリーズ全体の「序章」と位置付けられている『奇人の手記』でベールイは、序文では主人公(レオニード・リヂャノイ)の「私」と作者(アンドレイ・ベールイ)の「私」の間には何の関係もないとしながら、他方で、序文と同様にベールイの署名が付された「あとがき」では、「この作品には自分が経験していないようなことは何も書かれていないが、書いているのは私(アンドレイ・ベールイ)ではない」と主張するなど、「私」という形象や作品の虚構性を巡るベールイの主張は錯綜しているようにも見える。

以上を踏まえ、本発表では、ベールイの幼年時代を「素材」とし、その住居や両親などの周囲の人々を綿密に描いた『洗礼を受けた中国人』を主な対象に、『叙事詩』シリーズにおける「私」という形象やその「語り」のレベルでの機能を検討する。

(まつもと たかし、早稲田大学)

[A03] Эхо Пушкина в Корее: стихи «Если жизнь тебя обманет...» и парикмахерские картинки

Сим Чжи Ын

Как поэт Пушкин стал известен среди корейцев благодаря стихотворению «Если жизнь тебя обманет...», которое в самой России и на Западе, наверняка и в Японии, читается редко. Корейцы среднего возраста и сейчас помнят эти популярные стихи, которые висели на стенах парикмахерских, скромных ресторанчиков или деревенских домов иногда с картинками. Эти стихи воспринимались корейцами почти как аксиома, поэтому даже не зная имя поэта, многие корейцы тогдашнего времени изучали их наизусть. Как примечательно, эта чисто корейская феномена в связи с пушкинской лирикой и дожило до нашего времени.

Об этой феномене здесь попытаемся подробно описать и осмыслить ее. Кроме того, объясним что такое 'парикмахерские картинки' и ознакомим корейское современное стихотворение, являющееся своего рода вольным переложением пушкинского стихотворения «Если жизнь тебя обманет...»

А состояние в России с стихотворением «Если жизнь обманет...» несколько иное. Непосредственным источником этого стихотворения является ода Державина «Утешение добрым», полная требовательного морализма и суровой назидательности. В отличие от этого пушкинское стихотворение с задушевной разговорной интонацией дают добрый житейский совет. Позже юный Лермонтов под влиянием пушкинского стихотворения написал стихотворение «Совет». Причем наблюдается, что пушкинское стихотворение ныне в России и пользуется довольно большой популярностью на блогах в интернете.

(Sim, Ji Eun, Hanyang University, Korea)

[A04] Два портрета: вопрос о моральности в искусстве

Ча, Чжи Вон

Antithesis of estheticism and morality (usefulness) has been the eternal theme in artistic creation. Even until now the question that what must go first in art, sense of estheticism or moral instructions, seems to have not been solved.

Especially in Russian literature we can find the history of inquiry of this agonistic theme. Every Russian writer incessantly thought about what their artistic creation could be used for, questioned whether it should instruct, or be useful. Since Alexander asserted that "гений и злодейство — две вещи несовмесные", Russian writers tried to find the possibility of their reconciliation. In the Russian history of this antithesis, the case of Nikolai Gogol is given our special attention, because Gogol took this theme as the cornerstone of his own artistic creation. Gogol, who had inborn genius talent for artistic expression, who had natural sense of estheticism, had always been tormented by the sense of duty that his art should do good for people, his artistic creation should lead people to do the right, divine things.

Gogol's thought of morality in art above all his writings was well reflected in a short story *The Portrait* (<Πορτρετ>) in his *Petersburg Tales*. Regarding Gogol's The Portrait and its theme about morality in art, noteworthy is one of short stories of the Korean writer in the first period of the 20th century, Dong-In Kim, *The Mad Painter* (<狂盡師>), which was also questioning about morality of artistic creation. Dong-In Kim, who defended estheticism in art most of all Korean writers at that time, nevertheless, regarding the theme, came to a similar conclusion in his story about the mad painter who pursued the utmost, absolute beauty all his life. This paper will explore how these two writers who were in completely different space and time interpreted this theme and how they came to the similar conclusion.

(Cha, Jhee Won, Seoul National University)

【A05】ヨシフ・ブロツキーにおける彫像

関 岳彦

本発表では、詩人ヨシフ・ブロツキーの創作における「彫像」を検討する。彫像はブロツキーが 1960 年代から 亡命を経た晩年までの長期に渡って繰り返し使用したモチーフであり、死や永遠、詩人の記念碑など彼が得意と する形而上的な問題を表現するケースも多く、同じくよく見られる同種のモチーフ「大理石」とともに、極めて大きな意味を持っていると考えられる。

ブロツキーの詩における彫像の重要性は以前からしばしば指摘されており、彫像のモチーフが個々の詩の分析の中で注目されてきただけでなく、ラズモフスカヤをはじめとする研究者がブロツキーにおける彫像を広く扱った論文を発表するなど、この問題に関しては明らかになっていることも少なくない。それでも、彫像のモチーフが長期間に渡って繰り返し描かれていること、その描かれかたが多様であることから、ブロツキーと彫像という問題は容易に結論を出せる類のものではなく、彫像を描いた詩とそこに描かれた彫像を精査してゆくことが不可欠であると思われる。

そこで本発表では、ブロツキーの 1985 年の詩『ティ ベリウスの胸像』や1995年の『コルネリウス・ドラベッ ラへ』をはじめとする亡命以降の作品に描かれた彫像を 中心に、ブロツキーと彫像というテーマを検討する。こ の二作は歴史的人物の彫像を描く詩であるという点で、 比較的よく知られた『メアリ・スチュアートへの20のソ ネット』(1974)を連想させるものであるにもかかわらず、 この 1974 年の詩に比べてあまり注目されてこなかった。 また彫像を描いた詩であるという点においても、ラズモ フスカヤらの研究では詳しく扱われていないなど、研究 者の関心の対象外にあった作品だと言える。しかしなが ら、これらは『メアリ・スチュアートへの20のソネット』 との関係や、ローマ人の彫像を描く中で浮かび上がって くる帝国や古典のテーマ、彫像のモチーフそのものが持 つ形而上的なテーマとの関連という意味で、無視してよ い作品だとも考えられない。

これらの詩を、ブロツキーにおいて数多く見られる彫像や他の作家の作品に表れた彫像のイメージとの比較を含めて分析することで、1980年以降のブロツキーの彫像を描く詩の中にどのような意味が込められていたのかを明らかにすることが本発表の目的である。

(せき たけひこ,東京大学院生)

【A06】ハルムス作品における未来派の形象

小澤 裕之

ダニイル・ハルムス (1905-1942) の創作は、後期に書かれたごく短い散文をのぞけば、難解なものが多い。意味を確定できない新造語がしばしば用いられるほか、全体としての意味上のまとまりも往々にして欠いているためだ。このような、あたかも「意味の関節がはずれた」テキストを読解するためのひとつの試みとして、彼の多用する比喩形象を手掛かりとする方法を提案したい。

ハルムスが作中で使用しているいくつかの比喩形象を、いわば「意味をつなぎとめる関節」とみなし、その形象に依拠して読み解いてゆくのである。こうした読みが可能なのは、彼が複数のテキストを通じて同様の比喩形象を用いているからであり、かつ同様の意味内容をそこに込めていると思われるからだ。

今回は、特に「魔法使い」の形象に注目したい。

ハルムスは未来派たちの影響のもとで詩作を開始しているが、彼らのなかには「魔法使い чародей」という言葉/概念を用いる者がいた。ダヴィド・ブルリュークは未来派の画家を「魔術師や魔法使い маг и чародей」と呼び、フレーブニコフは自身の夢想する未来の技術を「偉大な魔法使い великий чародей」という言葉で形容しているのだ。

その「魔法使い」が、ハルムスのテキストにおいて、おそらく未来派を表象している。たとえば、『エリザヴェータ・バム』(1927 年)のなかで、バムの父親が「魔法使い чародей」と呼ぶ相手は、音のザーウミを駆使するピョートルであった。また、『報復』(1930 年)のなかでは、やはり音のザーウミを用いるファウストが「妖術師колдун」と呼ばれている。

こうして 1930 年前後のテキストを題材にして、これら「魔法使い」や「妖術師」といった一連の形象が未来派のイメージを投影したものであるかどうかを、ひとつひとつ確認してゆく。もしすべて同じ未来派を表象するものであれば、「魔法使い」の形象はハルムスのテキストを読み解くためのひとつの手掛かりになりうるだろう。

このように「魔法使い」という形象を分析してゆくことで、ハルムスが「魔法使い」 = 未来派にたいし取っていた態度も、結果的に明白になってくる。

かつてフレーブニコフが『師匠と弟子』(1912 年)のなかで師匠を超えようとしたように、今度はハルムスが自らの師である魔法使いを超えようと苦闘している様子が、その複数のテキストから浮かびあがってくるのである。

(おざわ ひろゆき,東京大学)

【A07】レーミゾフの虚実について(アーカイヴ調査 をもとに)

小椋 彩

2012年、パリ在住のエゴール・レズニコフ氏の所蔵す るアレクセイ・レーミゾフ関連資料の大半が、その管理 をモスクワの文学博物館に委託された。氏は、レーミゾ フのパリでの最晩年を支えた亡命ロシア人、ナタリヤ・ レズニコワ氏の長男である。度重なる移転や戦争によっ て多くの資料が散逸したことをレーミゾフ本人がたびた び嘆いているとはいえ、レズニコフ一家は1957年の作家 の死後 50 年以上にわたって大量の遺品を保管していた のであり、その功績はきわめて大きい。これらの資料は おもに1940年代後半以降の日付を持つ手稿、イラスト、 カリグラフィー作品、蔵書、手紙、日記、パスポート、 写真など、レーミゾフ本人の所有物のほかに、レーミゾ フ夫人セラフィーマの遺品も含まれる。レーミゾフがそ の創作活動全般において、自分のみならず、他人の筆に よるものまでをも自分の作品に活かしていたことはこれ までもたびたび指摘されてきたが、現在進展中の博物館 による調査からは、夫人や他人の手紙や日記が創作にい かに活用されていたか、詳細が明らかになりつつある。 一方、資料の量に加え、レーミゾフが自らの創作に施し た、「虚実の編集作業」が複雑であることから、今後に期 待される問題点もいまだ山積している。

今回の学会発表では、以上のような現状を踏まえ、 モスクワおよびペテルブルグでのアーカイヴ調査によっ て新たに発見された資料をもとに、おもにエッセイ『ネ ズミのフルート』および最後の長編小説『音楽教師』を 題材として、作家の創作における「虚実」の混交につい て考察する。

(おぐら ひかる, 東京大学)

【A08】オレーシャ『羨望』におけるコミュニスト像の生成の問題

古宮 路子

IO. オレーシャの代表作『羨望』(1927) は、発表当時、文壇で大きな話題を呼んだ作品だ。当時の文芸批評家達はこの作品を評する際、特に、主要登場人物の人物像の社会的意味合いに注目した。なかでも、コミュニストであるという理由から、主人公のカヴァレーロフと並んで議論の的になったのが、カヴァレーロフと対立する人物アンドレイ・バービチェフだった。批評家達は、アンドレイ・バービチェフ像がコミュニストらしくないと批判したが、その背景には、この人物が、当時の文学作品でよく描かれた典型的なコミュニスト像から逸脱していたことがあるようだ。本発表は、この逸脱がなぜ起こったのかを明らかにするために、『羨望』の草稿からこの人物の生成プロセスを探るものだ。

草稿の検証からは、アンドレイ・バービチェフが、創 作時期によって職業や家族構成を頻繁に変えられた流動 性の高い人物であることがわかる。しかし、そのような 流動性にもかかわらず、彼は初めて作品に導入された時 点から一貫して、コミュニストだった。とはいえ、オレ ーシャは、彼によってまさにコミュニストを描こうとし たわけではないようだ。導入された当初のこの人物はコ ミュニストというよりもまず技術者の知識人(造船技師、 建築家)だった。アンドレイ・バービチェフは、何より もまず「成功者」像として作られた人物であり、コミュ ニストであることは、ソ連において彼を成功者とするた めの方便だったといえる。腕利きの実務家であること、 裕福な暮らしをしていること、一部の草稿で見られるよ うに幸福な恋愛をしていること、といった、典型的なコ ミュニスト像からはみ出る特色は、オレーシャが彼を「成 功者」として描こうとしていたことを考えれば、辻褄が 合う。

オレーシャが最終的にアンドレイ・バービチェフを食品工業トラストの理事長にしたのは、その方が作品が面白くなると考えたからだった。この作家は、ラップのスローガン「生きた人間」に見られるような、当時のソ連文壇で沸き起こっていた典型的登場人物をめぐる議論にとらわれることなく、いかに作品を面白くするかを第1に考えて、アンドレイ・バービチェフという人物像を作ったのだ。ここには、オレーシャという一同伴者作家が、当時の文壇の動向にどのような態度で接していたかが表れていると言えるだろう。

(こみや みちこ, 専修大学)

【A09】「覆い」としてのことば:ウラジーミル・ナボコフ『ルージン・ディフェンス』におけるチェスと言語

澤直哉

本発表の主たる考察対象は、ウラジーミル・ナボコフ 『ルージン・ディフェンス』におけるチェスの主題と、 主人公ルージンの言語の問題との結びつきである。

作者自身も嗜んだチェスを主題とした『ルージン・ディフェンス』が、一種の棋譜として読まれることは至極 当然なことで、そのような試みはすでに数多く為されて きた。しかし、読解の位相を変えて作品に向き合うなら ば、このチェスという主題が、じつは主人公ルージンの 言語の問題と深く結びついていることがわかる。

第1章で父親に書き取りを手ほどきされる場面から一貫して、学校の成績ではロシア語が「不可」であるなど、作品内ではルージンのある種の「文盲性」が強調されており、その一方で、チェスの棋譜はルージンによって、手筋の「ハーモニー」を表す「連なった記号」として理解され、さらにそれを読む行為は、小説を読むことにも喩えられる。ルージンは、いわば通常の言語を習得し損ね、その代替としてチェスの言語を習得するのだ。

その証左であるかのように、神経衰弱に倒れる作品中盤以降、チェスを指すことをやめたルージンは、妻に小説を読み聞かされたり、義父からタイプライターを譲り受けて文章を打ち始めるなど、習得し損ねた言語を再習得すべく「再教育」されていくのだが、この流れに呼応するかのように、作品には「覆い」という主題が登場してくる。

この主題の中心となるのは、ルージンの「ジャケット」である。ルージン夫人の母は、ルージンとの結婚に反対して、チェスなしのルージンを「素裸の気狂い одно голое сумасшествие」と呼ぶ。じつは作品前半においてすでに、彼女は「チェスは隠れ蓑/覆いではないのか не есть ли шахматная игра прикрытие」と疑っているのだが、結局チェスをやめて結婚することになるルージンの「ジャケット=覆い」が、第11章において新調されるのだ。このジャケットの新調は明らかに、チェスの言語を脱ぎ、通常の言語を纏うことのアレゴリーとなっている。

このように、「覆い」という主題とも密接に結びつけられている言語の問題が、ナボコフの言語観を端的に表すのみでなく、『ルージン・ディフェンス』という作品の創作原理のひとつであることを、作中の様々な細部の検討を通して明らかにしたい。

(さわ なおや,早稲田大学院生)

[A10] Роль медиа в появлении первых музеев им. Л.Н. Толстого: японские материалы в Толстовском музее в Петербурге

АЛЕКСАНДРОВ Александр

В статье прослежена судьба первого музея в России, посвященного Л. Н. Толстому, открытому в Петербурге в 1911 г. Анализируется роль средств массовой информации в формировании первых коллекций музея, прослежена судьба учреждения в послереволюционные годы. История учреждения после 1917 г. прослеживается по письмам и материалам из архива В. Д. Бонч-Бруевича и В. И. Срезневского. Их переписка, сохранившаяся в НИОР РГБ (Ф. 369) и РГАЛИ (Ф. 436), продлившаяся более 30 лет без преувеличения, уникальный документ эпохи, проливающий свет на работу исследователей дореволюционное и послереволюционное время. В библиотеки докладе анализируются материалы Толстовского музея, сохранившиеся в Пушкинском Доме в Петербурге, в том числе исследователям будут продемонстрированы слайды титульных листов трудов и переводов с автографами японских русистов первой половины ХХ века.

> (アレクサンドロフ アレクサンドル, ロシア文学研究所)

[A11] Отблески Андрея Белого в портретах некоторых персонажей Газданова

АЛЕКСАНДРОВА Эльмира

В докладе впервые рассмотрены образы эпизодических персонажей Гайто Газданова, «прототипом» для которых в определенной степени послужила личность Андрея Белого. Одним из них оказывается Борис Белов, отмеченный автобиографическими аналогиями приятель героя-рассказчика из романа «Вечер у Клэр» (1929). Внутренние противоречия и отношение к музыке сближают его с личностью поэта-символиста, который в своих теоретических работах И литературно-критических выступлениях утверждал необходимость подчинения искусства слова законам музыки. На эту связь косвенным образом указывает имя героя — Борис Белов, — которое рассмотрено как неполная анаграмма настоящего имени поэта — Борис Николаевич Бугаев — и псевдонима — Андрей Белый. В фигуре газдановского персонажа при всей его ироничности и «неизменной» шутливости скрывается боязнь насмешек и угадывается трагическая нота. Цитирование героем начала духовного стиха «Плачь Иосифа Прекрасного» вскрывает дополнительный интертекстуальный подтекст: эти же строки предпосланы Чеховым в качестве эпиграфа к рассказу «Тоска» (1886).

Другими героями, отмеченными чертами Белого, стали персонажи «Истории одного путешествия» (1935) проезжий лектор и его подражатель Сережа Свистунов, во многом вписанные в «гоголевский» интертекст романа. Их склонность к «обобщениям» и «душевному размаху» — отражение восприятия литературной критикой русской эмиграции личности писателя-символиста, который на каждой странице своих произведений «срывается в свои любимые "бездны"» (Г. Адамович). Сходство героев с образом Андрея Белого, провозгласившего себя последователем и учеником Гоголя и развивающего в своем творчестве художественные принципы автора «Мертвых душ», подчеркивает полигенетичность образа второстепенного героя, характерную для творческого Газданова, предполагающую одновременную адресацию сразу к нескольким источникам, построение сложной системы взаимосвязей художественных текстов. При этом одни и те же образы у Газданова часто имеют как «литературных», так и реальных прототипов.

(アレクサンドロワ エリミラ, ロシア文学研究所)

[A12] Чужие слова как коллаж из «следов» культурной памяти: О художественном методе в «Поэме без героя» Анны Ахматовой

СЮН Цзун-хуэй

Самым заметным произведением в позднем творчестве Анны Ахматовой, безусловно, является «Поэма без героя». Сложные интертекстуальные связи с многочисленными произведениями русских и европейских поэтов, содержащаяся в «Поэме» память о прошедшем столетии русской культуры, делают это произведение самым загадочным в истории русской литературы XX века.

Роман Тименчик, чтобы объяснить творческую концепцию Ахматовой, представленную в «Поэме», использует заимствованный у К. Леви-Стросса термин «бриколлаж». Этот термин с позиций современного литературоведения считается одним из наиболее удачных, поскольку он позволяет раскрыть своеобразие творческой манеры Ахматовой в данном произведении. Автор настоящей статьи, опираясь на указанное понятие, пытается продемонстрировать, как Ахматова, используя характерные для «коллажа» приемы реализании комбинационной случайности и авторской автономии, нарушая при этом историческую последовательность, конструирует свойственную «Поэме» «фабульную линию», в том числе и «психологическую линию» автора.

(Tsung-huei HSIUNG,

Национальный тайваньский университет)

【A13】Φ.M.ドストエフスキー『罪と罰』のエピロー グにおける語り手の問題

田中 沙季

Φ.Μ. ドストエフスキーの長篇小説『罪と罰』のエピローグというと、ラスコーリニコフの「復活」が唐突に描かれている点、M.M. バフチンのいう「対話」が欠如している点などがやり玉にあげられ、否定的な評価を受けることが多い。「復活」の唐突さに対しては、作品序盤の随所に散見される主人公の信仰心の痕跡を洗い出すことで擁護が試みられている一方で、「対話」の欠如に関しては再検討がなされていない。エピローグの語りはいわゆる「神の視座」からなされるモノローグ的な言説であるという見方が一般論として定着している。

だが主人公の精神的な復活や信仰心の芽生えが、エピローグに先立ってソーニャおよびポルフィーリイといった登場人物たちの声によって語られていることを踏まえるならば、エピローグでモノローグ的に響く語り手の声も、実はこうした個々の人物の声と同等であると考えることが可能ではないだろうか。ソーニャとポルフィーリイはそれぞれの限定された立場・視点からラスコーリニコフの内に秘められた思想や信仰の問題を読み解き、そうして得た各々のラスコーリニコフ像を元に彼らは力強い語調で主人公の将来に起こる「復活」を推測している。特にポルフィーリイの言説はその後のシベリアの川岸でのソーニャとの抱擁の場面でも使われる「岸辺」や「生活」といった言葉を含んでおり、ディテールにまで踏み込んだ予言となっている。

とはいえポルフィーリイの言葉は同時に多くの留保も含んでおり、作家が彼に未来を正確に予言する力を与えたわけではないことには十分に注意を払う必要がある。しかもこのポルフィーリイの予言はすぐさま当事者であるラスコーリニコフの反論(「どれだけ偉そうに落ち着いて高みから、私に対してひどくもったいぶった予言をなさるんです?」)を受けている。ポルフィーリイの言葉が他者の応答を受け入れる余地を持っていることは、それを継承するエピローグでの語り手の言説もまた、決して「神の視座」から眺めた真実を語っているのではなく、ポルフィーリイと同じような、反論可能な個的な声でもってある見解を語っているに過ぎないことを示唆している。本発表では以上のような仮定を踏まえて、エピローグにおける語りの質を再検討し、作品全体の中でのエピローグの位置づけを考え直す。

(たなか さき,早稲田大学院生)

【A14】「大審問官」と『カラマーゾフの兄弟』における構成と構成要素

樋口 稲子

「大審問官」の起源には構成と素材についての問題 が特別の意味を持つ。その構成には、そもそも最初か ら複声を成立させる要素が用意されていた。例えば、 アレクセイとイワンは対立する位置関係に、ドミート リーとグルーシェンカは並立に位置し、イワンとスメ ルジャコフは一線の左右に並ぶ分身として、また教唆 と実行者という表裏の関係として機能しながら、他者 に作用している。こうした複数の登場人物は、それぞ れ各自が独立した位置から、自己の世界を他者に開い てゆくように見える。この構成は、複数の声が立ち上 がって行く為に必要な基本的な舞台設計といえる。こ の様に、一つの作品に独立した一人の人間の声が複数 響くことがポリフォニーであるならば、一人の人間に 複数の立ち位置を認め、複数の声を持たせることが出 来るなら、それは二律背反を表すことが出来る事にな る。一人の人間の閉じられない世界とは、こうした声 の多面性にも秘されている様に思われる。構成上極め て類似性を持つと見られるエデンの園の構成は、神を 中心とするモノローグの単一世界であり、未だ声を持 たない登場人物には、エデンの園の枠を破壊すること は出来ない。アダムとイヴを唆し、神への背信を巧み に他者の手によって成し遂げた蛇は、エデンの園にお いて自分の声で話し、自分の言葉を語る唯一の存在で ある。蛇は、のちにサタンと同格と見做されるが、人 間を神から解放したとして、むしろ人間にとって価値 のある存在である。人間を神から解放したというこの 一事は、人類が文明を築いてゆく以上に驚異的な出来 事である。こうした観点から、イワンを見ると、神の 存在の意味を深い懐疑の目で見て、人類に神からの離 反を一方では勧め、一方では人類の幸福の為に神の存 在を含めキリスト教会そのものを信じ込ませておこう とする。蛇が禁忌の木の実を食べる事をアダムとイヴ に唆したのと同様に、イワンの神からの離反を勧める 根拠となっている人間観と世界観には、論破出来ない ほどの正当性がある。アダムとイヴは、人類の一般的 姿を代表して、常に新しい生と人間を志向する。本報 告では、こうした比較を踏まえて構成要素を語る予定 である。

(ひぐち いねこ,早稲田大学院生)

【A15】ドストエフスキーの作品における若いニヒリストたちの精神的導き手について

齋須 直人

「神の存在への疑念を超えて本物の信仰に至る」とい うモチーフはドストエフスキーの作品の主要なテーマの 一つである。ドストエフスキーは 1881~1882 年の『作家 の日記』のための創作ノートで、『カラマーゾフの兄弟』 の「反抗」、「大審問官」の節について、「ヨーロッパにお いてもこのような無神論の表現の力強さはないし、これ までもなかった」と述べ、すぐ後に「つまり、私は少年 のようにキリストを信じ、彼の教えを信仰してはいませ ん、そうではなくて、巨大な疑念の炉を通って私のホサ ナは到来したのです」と記している。この創作ノートの 一節からも分かるように、ドストエフスキーにとっては イヴァンの打ち立てた強力な無神論は乗り越えられ、最 終的には信仰にとってかわられるべきものである。Γ. B. ポノマリョーヴァが述べているように『カラマーゾフの 兄弟』を読み解いていけば、イヴァンが信仰へと向かう 可能性が示されていることが分かる。

ドストエフスキーの作品の無神論者たちは単に無神論を主張するだけはなく、彼らは同時に信仰を求めており、作品中でも彼らが信仰へと向かって行く方向性、可能性が示唆されている。そして、ドストエフスキーの作品では無神論者が信仰へと向かうためには、彼らの精神的導き手となる登場人物が重要な役割を果たしている。発表者はこのことがより明白なかたちで現れ始めるのが、『白痴』のケルレル、イポリートと彼らの「告白」の受け取り手であるムイシュキンの関係であり、それがその後の『悪霊』のスタヴローギンとチーホンの関係に発展していると考える。

本発表ではこれら二つの長編における若いニヒリストたちと導き手との関係を中心に、ドストエフスキーの作品におけるニヒリズムの克服のために精神的指導者が果たす役割をテーマとする。

精神的指導者の形象が描かれるさい、ドストエフスキーがロシア民衆の歴史的理想像と見なした聖人ザドンスクのチーホンの思想や伝記が参考にされている。この聖人の思想と 1860 年代のドストエフスキーの土壌主義の概念とニヒリズムの関係をもとに考察する。

(さいす なおひと,京都大学)

[A16] Собор и музей: о концепции культуры О. Мандельштама и А. Сокурова

ПАК Сун Юн

Можно полагать, что поэт О. Мандельштам и кинорежиссёр А. Сокуров имеют сходную точку зрения на культуру. Осознавая ценности культуры, оба они сильно верят в длительность культуры и не раз показывают эту веру в своих произведениях. Между прочим, у каждого есть свой стержневой образ, воплощающий вечность культуры: у Мандельштама — это образ «собора», а у Сокурова — образ «музея».

Как известно, для Мандельштама «тоска по мировой культуре» — это главное творческое кредо не только в ранний, но и в поздний периоды. Особенно в ранних архитектурных стихах поэт размышляет о длительности культуры в рамках акмеистической поэтики. В стихотворениях «Айя-Софья» и «Notre Dame» (1913) поэт подчёркивает, что собор — символ культуры, преодолевшей разрушительную силу времени.

По сравнению с тем, что Мандельштам показывает свою твёрдую веру в длительность культуры, даже находясь в бытийственном кризисе, Сокуров довольно смутно и сложно выражает свою веру в неё. В фильмах Сокурова господствуют образы «смерти» и «войны», а всё же нужно запомнить, что в своих фильмах, насыщенных образами с отрицательным оттенком, кинорежиссёр беспрерывно рассказывает о культурной длительности, основанной на памяти о прошлом. Для Сокурова, сказавшего, что «Остаётся только культура», музей является топосом, где сохранена вся история и культура. В фильмах «Робер. Счастливая жизнь» (1996), «Элегия дороги» (2001), «Русский ковчег» (2002), «Франкофония» (2015) и др. он излагает своё мнение о культурной длительности, не скрывая ностальгию по прошедшему и утверждая, что продолжается и смерть, и жизнь.

В докладе будет подробно рассмотрено, как поэт Мандельштам и кинорежиссёр Сокуров развивают свою концепцию культуры через образы «собора» и «музея», в которых пересекаются не только жизнь и смерть, но и прошлое и настоящее/будущее.

(Park Sun Yung,

Chungbuk National University, Kopes)

[A17] О выборе основного источника первой книги романа А.Н. Толстого «Петр Первый»

АКИМОВА Анна

Исторический роман «Петр Первый» является одним из наиболее важных и популярных произведений А.Н. Толстого, который издавался и издается огромными тиражами. В настоящее время текст романа переиздается по посмертным собраниям сочинений писателя, то есть по текстам, которые не были выверены по всем архивным источникам и содержат огромное количество редакторских ошибок. опечаток Комментарии к роману нуждаются в большей полноте и в привлечении ранее не использованных архивных материалов из Отдела рукописей ИМЛИ РАН, ИРЛИ (Пушкинский Дом) РАН и РНБ. Цель данного доклад введение в научный оборот новых, публиковавшихся, не использованных при подготовке собраний сочинений писателя, не учтенных публикации текста первой книги романа «Петр Первый» архивных материалов, необходимых для научного издания текста романа А.Н. Толстого, написания его творческой истории И комментария. архивах Москвы, Санкт-Петербурга Самары И выявлены новые материалы - записные книжки и творческие записи к а также необходимые при проведении текстологической работы по тексту источники первой книги (автографы и авторизованные машинописи).

Впервые в результате анализа всех источников текста романа (включая прижизненные издания) был установлен основной источник текста первой книги, критическое прочтение которого позволило выявить многочисленные издательские, редакторские искажения и опечатки, а также необоснованные изменения в тексте, что необходимо при научной подготовке и издания текста романа «Петр Первый».

(アキーモワ アンナ,世界文学研究所)

[A18] Советские кино/литературные репрезентации шпионажа в конспирологической перспективе ВЫЮГИН Валерий

В предлагаемом докладе я хотел бы обсудить роль и место фикционального дискурса шпионажа («шпионской» литературы, кино, etc.) среди других дискурсов, доминировавших в публичном пространстве СССР на разных этапах его существования. Речь пойдет не только и не столько о героях литературы или кино самих по себе, а, скорее, о своего рода риторическом средстве, которое позволяет транслировать некое содержание, формируя неявный рецептивный фрейм для тех, кому такое послание адресовано.

Вначале я остановлюсь на двух довольно разных по характеру источниках, от которых я отталкивался: на концепции детективных и шпионских нарративов Люка Болтански (Luc Boltanski) и на идее конспирологического мира, предложенной Габором Риттершпорном (Gábor T. Rittersporn) в одной из его работ о сталинской России. Затем, предложив краткий обзор наиболее значимых фильмов и литературных источников, я попытаюсь проследить некоторые существенные, зачастую довольно резкие изменения в популярных репрезентациях шпионажа, которым была подвержена советская массовая культура начиная с 1920-х гг.

В центре моего внимания окажется вопрос о взаимосвязи между коспирологическими представлениями и шпионскими нарративами в разных политических ситуациях при разных эмоциональных состояниях общества.

【A19】ミメーシスとブーニンの作品(1910 年代)に おける物語の作法

田子 卓子

本発表は、ブーニンの作品テクストをミメーシスという観点から捉えなおし、新たな解釈を試みるものである。ブーニンの作品における描写の重要性は詩、散文ともに見過ごすことはできないし、自然描写、人物描写、色彩のグラデーションなどに関する数多くの研究がある。しかし、本研究の目的は、個別の作品や事物に対する描写の特徴を見出すことではなく、「語り」の方法としての語ること(ディゲーシス)と示すこと(ミメーシス)がどのようにテクストの構造に働きかけているかを検討することである。

文学的描写、つまり模倣による現実解釈であるミメーシスに注視し、ヨーロッパ文学の研究に偉大な足跡をのこしたアウエルバッハは、文学上のミメーシスの性格が、「語り」の構造と深く連関していることを明らかにしている。20世紀になると世界を一様に語ることができないと気づいた作家たちは、全知の視点を持った語り手に替わる手法として、多人称的意識の描写や語り手の視点の移動を積極的に取り入れようとした。これは、一つ一つのエピソードに明確な意図や意味らしきものを認めることができない物語の場合、ただ一つの主体に意識を集中するのではなく、主体を見つめる多数の意識をとりこみ、より客観的な事実に接近する現実的手法である。

そのため分析の対象には、筋だてや物語の内容を容易につかめない作品を取り上げるのが適当と思われる。ブーニンの 1910 年代の 2 つの作品『スホドール』と『軽い息』から、同じものを異なるように見せ、また異なるものを同じようにみせる風景や、主人公を取り巻く場景を取り出し、テクストの様々表情を比較する。基本的には同一作品の中での比較をするが、より多くの可能性を与えるため、ナボコフの作品も参照する。本研究によって物語世界に奥行きを与え、多様な見せ方をするミメーシスの手法を明らかにしたい。

(たご たかこ,東京大学院生)

【A20】プラトーノフ『秘められた人間』におけるロシア内戦期のロシア南部およびカフカスの表象について

古川 哲

ソビエト文学においては、アヴァンギャルド、プロレタリア文学、その後の社会主義リアリズムの時代を通じて、方法論に違いはあれ階級闘争を扱う文学が是とされていた。また、ロシアにおける社会主義国家は第一次世界大戦のさなかで生じ、かつソビエト連邦は平時においても隣接する資本主義国家との緊張のなかにあった。こうした事情から、ソビエト文学においては戦争を扱う作品が少なくない。とくに、ロシア内戦はソビエト連邦の直前に起こった戦争であるため、この戦争を描く際に個々の作家が革命に対してもつ態度がはっきりと表現されることになる。

そして、この文脈において、戦争の前線としてのロシアの辺境の表象を検討することが必要になる。そのなかでも、とりわけロシア南部からカフカス地方が、ロシア文学の伝統を批判的に検討するうえで重要性をもつ。というのも、近年の研究において、19世紀にロシアの近代文学が成立するうえで、この地域の自然と文化をどう表象するかということが枢要な課題だったことが指摘されているからだ。カフカス地方を舞台とするロシア内戦の小説を論じることで、19世紀ロシア文学とソビエト文学の連続性を考察する視界を開くことが本発表の課題なのである。

上記地域に関する以上のような理解に基づき、本報告ではアンドレイ・プラトーノフによる中篇小説『秘められた人間』(1928年刊行)を扱う。この作品では、技師を職業とし赤軍に従軍したプホフの視点から、内戦が進行中のロシア南部とカフカス地方が描かれている。

『秘められた人間』におけるカフカスの表象の特徴としてあげられるのは、ロシア近代文学において伝統的な異国への憧憬に加え、石油など資源への関心である。前者は北カフカスのリゾート地で黒海沿岸に位置するエカテリノダールについての記述に、後者は南カフカスに位置しカスピ海沿岸に位置するバクーについての記述に現れている。しかし、こうした表象を考える際に重要なのは、それらが放浪者的な性格をもっている主人公のプホフの移動にともなって表れることである。つまり、『秘められた人間』におけるカフカスの表象は、その土地の土着性や地理的な相貌のみならず、多様な人々が行き交い出会うことを可能にしている場所という機能が強調されている。端的に言えば、この作品におけるカフカスの表象で特に重要なのは、旅人の目から見た旅人たちに関する表象なのである。

(ふるかわ あきら,聖心女子大学)

【A21】近代ロシア文学における「気球」

金沢 友緒

<人類の飛行>のテーマは、科学の分野においてのみならず、文学・芸術においても創作の題材として高い関心を呼んできた。

このテーマと関連する研究としては、まず、19世紀ロシアの文学・批評を専門としている B.Φ.エゴーロフの論文『月へのユートピア飛行』(2008)が挙げられる。ここでは近代ロシアにおける<別世界への旅>を描いた文学作品の変遷が概観されている。ロシアで月世界への飛行の最初の描写が試みられるのは 18 世紀後半においてであり、その先行文学としては B.A.リョーフシンの『ベリョフ市で記された新世界旅行』(1784)が挙げられる。さらに、「飛行旅行」はファンタジー文学を構成する要素として、19世紀ロマン主義時代の B.K.キューへリベケルや B.Φ.オドエフスキー等の文学の中にも頻繁に登場した。

エゴーロフの論文は、飛行した先の<月世界>(異世界)の考察に力点が置かれているが、本研究ではこれらの作品の中で、特に気球が作り上げてきた飛行のイメージに注目する。

気球は完成に至るまでの試行錯誤の段階で、既に多くの作家達の関心を引きつけていたが、1783 年のフランスの発明家モンゴルフィエ兄弟による熱気球実験の成功がヨーロッパ各地でセンセーションを引き起こして以後、この兄弟をはじめとする飛行実験者達の名前はますます大きな意味を持つものとなった。西欧近代の読書社会は〈気球文学〉を代表するものとして、フランスの作家ジュール・ヴェルヌの『気球に乗って 5 週間』(1863)という注目すべき作品を生み出した。しかし、ロシアでも同様に、「気球」は近代文学の魅力ある題材となったのである。エゴーロフが挙げたキューヘリベケルやオドエフスキーのほかにも、18 世紀末の H.M.カラムジンもまた『ロシア人旅行者の日記』 (1790) の中でモンゴルフィエ兄弟について言及している。

本研究では、文学領域の文献のほかに、モンゴルフィエ兄弟以降の気球をめぐる科学史の情報を踏まえながら、18世紀末から 19世紀前半のロシアの作家達が残した気球についての記述や気球のモチーフを取り入れた作品を取り上げて、考察する。当時の作品において「気球」のイメージがどのように機能していたのかを明らかにし、近代ロシア文学形成・発展期における「気球」の役割を推察することが狙いである。

(かなざわ ともお、日本学術振興会特別研究員)

【A22】ニコライ・シパーノフとソ連初の私立探偵の イメージ

坂中 紀夫

シャーロック・ホームズ的探偵は、ソヴィエト文学においては諸外国の場合ほどは自明の存在ではなかった。欧米の推理小説はロシアでも早くから紹介され、翻案も創作されていたが、ソ連市民の私立探偵で一定の知名度を得たということでは、ニコライ・シパーノフ(1896-1961)の1945年の短編小説に登場するニール・クルチーニンが恐らく最初期の存在である。彼にはスレン・グラチークというワトスン役がおり、この人物が一人称の語り手になる(初出時)という点でも「ホームズ」と共通している。だが、E・A・ポーのデュパンの出現(1841)から一世紀以上もの時間を要したのはなぜなのか。

その要因としてよく指摘されるのが、私立探偵の仕事の特殊性である。私有財産を取り戻す協力(階級の敵)、裁判所や警察の鼻をあかすような真犯人の指名(司法や行政は無謬のはず)、犯罪の世界との関わり(この社会に暗部などない)といったイデオロギー的な問題から、この職業はソ連市民のものとしては描きにくかったのだ。現実の世界でも、私立探偵という存在が法的に定められたのは、ようやく1992年のロシア連邦私立探偵警備活動法でのことで(主眼はセキュリティ問題にあったようだが)、帝政期やソ連時代にそうした試みが実現されることはなかった。

こうした条件下で、シパーノフはクルチーニンを発表したわけだが、50年代の民警小説(基本的なプロットは地道な集団的捜査による事件の解決である)の流行からも推察されるように、この私立探偵は文壇の一部から否定的な評価を受けることになる。例えば、民警小説の代表的作家アルカージー・アダモフは、基本的に一人で謎を解くクルチーニンの「超人」性を「生活の真実からの後退」であると痛烈に批判した。つまり、シパーノフの私立探偵は登場前も登場後も困難な状況におかれていたのである。

では、シパーノフはいかなる工夫によってクルチーニンを生み出し、シリーズ展開に伴う登場人物らの変化の中で批判にどのように答えようとしたのか。この問題の検討には、ハワード・ヘイクラフトがその探偵小説論の古典『娯楽としての殺人』で示したある主張に修正を加えるという意義がある。つまり、クルチーニンのイメージの考察は、社会主義圏における探偵小説の不在という権威的かつ通俗的な意見を、より現実に即したものに近づけることに寄与するのである。

(さかなか のりお, 同志社大学)

【A23】『コーカサスの捕虜』論

堀越 しげ子

旅は人の心を日常から解放し、新しい視点の獲得を可 能にする。1820年南方追放を受けペテルブルグを出発し たプーシキンは、ラエフスキー一家とコーカサスおよび クリミア旅行に出かけた。4 千に級のエルブルスをはじ めとするコーカサスの山々を眼にし、二か月間温泉治療 と登山を楽しむ。古代ギリシア以降の様々な国家の遺跡 を残すクリミア半島の小集落ユルズーフに滞在、海水浴 やバイロン読書やクリミア・ハンの宮殿のあるバフチサ ライの訪問で、以前から知識として知っていた作家(バ イロンとゲーテ) が新たな印象と共に体感され、文学的 挑戦の気持ちが膨らんだ。プーシキンは、エレジー『き らめく陽の光は消え』、古代ギリシアの詩エレゲイアを 模倣した一連の詩(たとえば詩『詩紳』)、コーカサス の印象を歌った『私はアジアの不毛の地を見た』を書く。 そして詩『タヴリーダ』、物語詩『コーカサスの捕虜』 に着手する。

本発表では主に詩『タヴリーダ』と『コーカサスの捕虜』について英文学で用いられるアルピニズムという考えを応用して検討したい。日本英語英文学会の鈴木雅光氏の「ロマン派詩人とアルプス」を参考にした。

(ほりこし しげこ)

[A24] Открытие М. Булгакова и О. Мандельштама в СССР

ЖДАНОВ Владимир, 鈴木 淳一

В работе рассматривается, как из долгого небытия в 60-70 годах прошлого века в СССР появляются книги М. Булгакова и О. Мандельштама, какое влияние они оказали на интеллектуальное сознание советской интеллигенции и как в 80-90-е годы в большой степени М. Булгаков и в меньшей О. Мандельштам становятся наиболее яркими знаковыми фигурами литературы XX века. В силу таких обстоятельств, как смена поколений, культурное развитие общества, влияние периода «оттепели», внешнеполитический курс на разрядку приводят к тому, что ортодоксальная литература соцреализма начинает уступать место литературе с высокими художественными достоинствами общечеловеческими ценностями, в частности, начинается публикация произведений Булгакова и Мандельштама, которые на протяжении почти 50-и лет не издавались в СССР. После первой публикации в 66-67 годах сокращённого варианта романа Булгакова «Мастер и Маргарита» (время создания романа 1928-1940) и выхода в свет в 1973 г. книги стихотворений Мандельштама (ранее последняя публикация Мандельштма в СССР была в 1928 г.) начинается активный процесс включения этих писателей вначале в интеллектуальный мир интеллигенции, а потом в культурный обиход общественного сознания. Старания властей ограничить доступ к книгам Булгакова и Мандельштама приводит к противоположным результатам: к стократному росту цен «чёрном рынке», массовому самиздату невероятному ажиотажу вокруг их имён. Появление спектакля «Мастер и Маргарита» в Театре на Таганге, популярной уличной песни «Товарищ Сталин» о судьбе Мандельштама, мелодекламационных концертов на стихи Мандельштама, фильмов по произведениям Булгакова и, наконец, включение фраз из их произведений в повседневную речь свидетельствуют о том, что М. Булагков и О. Мандельштам, начиная с 80-годов, становятся яркими прецедентными феноменама русской культуры ХХ века.

(ジダーノフ ヴラヂーミル, すずき じゅんいち, 札幌大学)

【A25】P.C.カーツ『ソ連 SF 史』の文学的意義と余波 梅村 博昭

P.C.カーツ『ソ連 SF 史』(第2版、1994年、3版、2004年、第4版、2013年)を一読して発表者はその内容の斬新さに打たれ、小さな研究会で引用することまでしたが、出席者から指摘を受け、これが事実と異なるエピソードからなる「歴史改変評論」ともいうべきものであることを知り、一層のショックを受けた(「カーツ」は虚構の作者であり、真の著者はサラトフの作家ロマン・アルビトマン)。標準的なソ連文学史の知識があれば、この本が偽書/フィクションであることは明瞭であり、その点まことにうかつであった。

しかし、この書を真に受けて引用するという例は海外 にもある。政治学者の Л.Г.フィッシュマンはその書『フ アンタスチカと市民社会』 (2002年) で大真面目に カーツの書を紹介しているほか、2010年にはイギリ スの雑誌『ファウンデーション』でエスラーなる研究者 が、この書にもとづいて、世界の SF の歴史は書き換え られるべきと訴えている。また、ロシアの TV 番組でも、 さる評論家がこの書を引用し、スターリンがポツダム会 議でトルーマンに月面の分割を提案したことを隠された 史実として紹介した例がある(これらの例は日本では知 られておらず、報告者は著者アルビトマンから直接教示 された)。これらの例を紹介するのはそれらの論者を笑 いものにするためではなく、カーツ/アルビトマンの書 が、研究書を装ったフィクションとしていかに成功して いるかを例示するためである。そうした例を紹介し、こ の書の歴史改変小説、「実在しない本についての本」と しての性格を検討する。また、アルビトマンの歴史改変 小説観を明らかにするため、彼がレフ・グルスキィの筆 名で書いた『ロマン・アルビトマン ロシア第二代大統 領伝』(2009年)についても簡単に触れたい。これ は、サラトフのジャーナリストであるアルビトマン本人 が、超常的な能力を駆使してエリツィンの後継者になる というプロットをもつ。一般に歴史改変小説は、実現し なかった歴史の可能性を人々が鮮明に記憶していること を契機として成立すると思われる。

(うめむら ひろあき)

【B01】ロシア語の性に関するいわゆる意味的一致における素性のあり方をめぐって

光井 明日香

ロシア語には врач「医師」などの職業や社会的地位などを示す男性名詞で、女性を指示する際に一致にバリアントを持つものが存在する。光井(2015)ではこのような名詞には先行研究で指摘されている врач のような第 1変化の男性名詞に加え、судья「裁判官」のような第 2変化の男性名詞、конферансье「司会者」のような不変化の男性名詞も含まれることを示し、これらを混合名詞と呼んだ。これらの名詞は女性を指示する際に定語や述語が男性形で一致する統語的な一致だけでなく、女性形によるいわゆる意味的一致も行う。

しかし、同じ混合名詞に属するとはいえ、第1変化の 男性名詞、第2変化の男性名詞、不変化の男性名詞は主 格以外の定語における一致と оба 「両方の」、два 「2」と の結合において異なるふるまいをする。主格以外の定語 における一致では、女性を指示する際に第2変化の男性 名詞と不変化の男性名詞が意味的一致を行うのに対して、 第1変化の男性名詞は意味的一致を行わない。また、oбa、 два との結合においても第1変化の男性名詞と他の2つ の男性名詞との間にふるまいの違いが生じ、さらに第 1 変化の男性名詞においては oбa との結合において指示・ 所有代名詞や形容詞などの通常の定語との一致とは異な るふるまいを見せる。第1変化の男性名詞は指示・所有 代名詞や形容詞などの通常の定語とは主格以外の格にお いて意味的一致を行わないが、oбa との結合においては 女性を指示する際に(c) обеими врачами のように主格以 外の格においても女性形と結合する例が見られる。

本発表では、Pesetsky (2013)のゼロ形態素 XK を採用し、 混合名詞におけるふるまいの違いについて理論的な説明 を試みる。Pesetsky (2013)は随意的なゼロ形態素である Ж が名詞句内で一度併合すると、名詞はそこから先一致の 結果として女性とみなされる、としている。Pesetsky (2013)は oбa と第1変化の男性名詞との結合において指 示・所有代名詞や形容詞などの通常の定語との一致とは ふるまいが異なることについて、独自の素性割り当てシ ステムを用いて説明を加えているが、これでは第2変化 の男性名詞や不変化の男性名詞と oбa の結合におけるふ るまいを説明することが出来ない。本発表では、記述的 データの考察によって、ある一定の一致素性の組み合わ せがゼロ形態素 **X** の併合を阻害することを提示する。考 察の結果、男性、屈折タイプI、単数、主格以外の格、 という素性がコントローラーの名詞にすべて揃うとゼロ 形態素 XK の併合が阻害されるということを示す。

(みつい あすか, 東京外国語大学院生)

【B02】ロシア語の斜格形と再帰代名詞との照応に関する「主体」の影響について

中野 悠希

ロシア語学では、構文上の概念として典型的には主格形で表される「主語」(подлежащее)と、意味上の概念として様々な形式で実現される「主体」(субъект)との区別が受け入れられている。「主語」は形態・統語的特徴から比較的容易に判定できるが、「主体」の判定は専ら意味役割(及びしばしば語順)に基づいてなされるため、文中のどの成分が「主体」であるかという判断は研究者の主観の影響を免れない。この点で「主体」は明確な規定の難しい概念であると言える。もし、ある成分が「主体」であることの証左を、意味役割だけでなく、その成分の統語的ふるまいなどに求めることができるとすれば、「主体」という概念をより正確かつ客観的に捉えることにつながるが、管見の限りこのような視点からの「主体」研究はほとんどなされてきていない。

本発表は、このように従来等閑に付されてきた形式と「主体」との相互作用に焦点を当てるものである。注目するのは次の例 (1)、(2) のような文である。

- (1) У каждого свой вкус.
- (2) Всему своё время.

特筆すべきは、通常「主語」と照応する再帰代名詞が、例(1)、(2)においては「主語」でない斜格形(例(1)では前置詞句"y+生格"、例(2)では与格)と照応しているという点である。今、例(1)の"y+生格"と例(2)の与格を意味役割から「主体」(広義の所有の主体)と見なすと、「主体」であることが、再帰代名詞との照応という「主語」の特徴をこれらの斜格形に引き寄せたとの推論が可能である。

本発表では、再帰代名詞の先行詞となる"y+生格"と与格、さらに先行研究で「主体」を表し得る形式として挙げられる"для+生格"や"c+造格"などの斜格形について、現代標準ロシア語で著された言語資料(主に文学作品)を対象として、再帰代名詞との照応能力の有無に関する調査結果を示し、「主体」であることが再帰代名詞との照応現象の必要条件と言えるか否かを考察する。次に、再帰代名詞の先行詞となることが確認された諸形式の意味役割の分析により、再帰代名詞と照応可能であることが「主体」であることの十分条件と言えるかどうかについて考察を行う。

本発表は、上記の調査と考察とを通して、斜格形の「主語」への志向とも見なせるふるまいに「主体」が影響していることを指摘し、意味の面以外からも「主体」研究が可能であることを示す。

(なかの ゆうき, 京都大学院生)

【B03】『エヴゲーニー・オネーギン』における «судьба» 及びその類義語の日本語訳について

福安 佳子

Согласно А.Д. Шмелеву (2005), существительное «судьба» имеет два значения: 'события чьей-либо жизни' и 'таинственная сила, определяющая события чьей-либо жизни'. В соответствии с этими двумя значениями оно возглавляет два различных синонимических ряда: (1) рок, фатум, фортуна и (2) доля, участь, удел, жребий. Слово «судьба» в русском языке во многом сходно с японским «унмэй», которое зачастую и служит его переводческим эквивалентом в японских текстах. В переводах синонимов слова «судьба» также наблюдается тенденция к употреблению «унмэй».

В данном докладе отмечается, что такой перевод не всегда адекватно передает намерения автора, который выбирал лишь одно самое уместное слово из ряда синонимов. Мой анализ основан на переводах на японский язык Евгения Онегина А. С. Пушкина: Оканое Моримити (1921), Ёнекава Масао (1921), Накаяма Сёзабуро (1941), Канэко Юкихико (1962), Икэда Кэнтаро (1962), Кимура Сёнти (1969), Кимура Хироси (1970) и Одзава Масао (1996).

Особое внимание в моей работе уделяется изучению употребления трех синонимов в Онегине: «судьба», «жребий» и «рок», причем «судьба» Онегина часто изображается как его покровитель, «жребий» — то, что выпало на его долю, и «рок» как неизбежность смерти или несчастья. Пушкинское употребление этих слов описывается особой схемой, отличной от упомянутой выше схемы Шмелева. На основе анализа существующих переводов я делаю вывод о важности анализа авторского выбора слов и тенденций их применения для того, чтобы ярче отображать авторскую картину мира в языке перевода.

В докладе рассматриваются сходства и различия между словами и понятиями «судьба» и «унмэй» в русской и японской языковой картине мира.

(ふくやす よしこ)

【B04】露日語の訳出行為におけるシフトの分析 —Павел Санаев 著 «Похороните меня за плинтусом» の翻訳実践報告

有信 優子

本発表は、「読みやすい翻訳」の「自然な日本語」を考察するため、原文(ロシア語)からの訳出結果(日本語)を、先行研究に倣って(河原、2009)、文法に焦点を当てて質的および量的に比較分析し、ロシア語から日本語への翻訳シフトの実際について詳らかにすることを目的とする。調査対象は、Павел Санаев著 «Похороните меня за плинтусом» の原文とその日本語翻訳である。また、Konstantin Gurevich and Helen Anderson訳の英語版"Bury Me Behind The Baseboard"も参照しつつ、比較分析を行う(原文:ロシア語、翻訳:英語)。主に、ロシア語、英語と比較したときの、日本語テクストの結束性について考えたい。

Bakerは、翻訳のaccuracy(正確)とnaturalness(わかりやすさ)について述べている。よい翻訳とは、一般的に、正確でわかりやすい翻訳であると考えられていることはいかなる実務家、理論研究者も異論はないであろう(Baker、1992;安西・井上・小林、2005)。しかし、何を持って正確でわかりやすい翻訳とするかについては、「直訳」対「意訳」の古典的な対立(Munday、2008)以来、理論上いまだ解決をみていないと言ってよい。また、翻訳の目的、翻訳のジャンルの違いといった実際的、現実的な要因によっても、よい翻訳の定義は変わりうる。それでもなお、一般的な意味で、ある特定の言語の「自然さ」や「言語らしさ」は存在していることは否定できない。

本発表は、翻訳の「日本語らしさ」を追求するものである。したがって、真か偽か、誤訳か否かといった観点では論じない。調査対象が、少年の視点から描かれている一人称小説であるという点も念頭に置きつつ、正確でわかりやすい翻訳を考えたい。翻訳である以上、当然のことながら他の言語で書かれた原文というものが存在する。その原文の言語にはその言語(ロシア語)の「自然さ」「言語らしさ」というものがあり、一方、翻訳の言語にもその言語(日本語)の「自然さ」「言語らしさ」がある。翻訳シフト(ずれ)の調査は、ジャンルの違いを越えて、ロシア語・日本語間の訳出行為、実務の際に役立つであろう。

翻訳通訳,文学,言語学,他の分野の研究者の方々とともに,議論・意見交換をしたい。

(ありのぶ ゆうこ, 同志社大学)

【B05】放射状カテゴリーを用いた語彙力の増加 - 応用・認知言語学的な観点からの接頭辞 про- の分析について-

佐山 豪太

語彙学習は第 2 言語を習得するうえで重要であるが、ロシア語教育には授業数が少ないという時間的な制約が存在する。結果、大半のロシア語学習者は語彙力不足の問題を抱えている。そのため、効率的な語彙力増加の方法が求められるが、本報告では、その方法として接頭辞がもつ意味の放射状カテゴリー(Radial Category、以下RC)を利用した語彙学習について検討する。

具体的な報告内容は、①「動詞接頭辞による語彙力増加の数量的な効果確認」、②「接頭辞 про-の RC の分析・考察」から成る。まずコーパスの頻度データを元に動詞接頭辞の学習が語彙力の増加に寄与することを、Word family という応用言語学的な概念を用いて数量的に確認する(①)。続いて、先行研究であまり触れられていない про-の RC を検討し、語彙学習との関連を検討する(②)。多義的な接頭辞の意味学習は RC を介した方が効率的であると考えられるためである。

RC とは、プロトタイプを中心に構成された、互いに関連する意味のネットワークを指す。プロトタイプは意味的に中心であり、そこからメタファーやメトニミーを介して他の意味の拡張が行われる。例えば、Laura Jandaらの先行研究は接頭辞 при-の意味群に関して、プロトタイプに「ARRIVE/到着」を据えている。そして、このプロトタイプから、ある場所にモノが固定されることをもたらす到着の一種である「ATTACH/付着」、大きな全体の中に他の要素を増やすという到着を表す「ADD/追加」へと意味が拡張している、と述べている。

本報告では、先行研究を元に про-の「THROUGH/(中を)通過」(例: проехать сквозь)をプロトタイプとし、その他の「PASS/(脇を)通過」(例: проехать мимо)、「DISTANCE/距離」(例: проехать 10 км)、「DURTION/時間」(проплакать всю ночь)等を対象に、意味の拡張がどのように行われたかを考察する(プロトタイプから、脇を通る場合の PASS へと意味の拡張が起こり、また、一定距離の通過は DISTANCE、一定時間の経過は DURATION となる、等)。その分析結果に基づいて RCの図を作成する。

(さやま ごうた,東京外国語大学院生)

[B06] Ошибки японцев в речи на русском языке КАТО Юри, АБЫЯКАЯ Олеся

При обучении русскому языку как иностранному в соответствии с принципом учета и прогнозирования трудностей особую актуальность имеет обращение к «отрицательному языковому материалу» и к методу эксперимента. Учет и прогнозирование трудностей связаны непосредственно с проблемами правильности иноязычной речи и интерференции.

∐ель настоящего доклада представить лингвометодическое описание ошибок японских учащихся в речи на русском языке. Поставленная цель предполагает решение следующих задач: разработать теоретическую базу исследования частности проанализировать существующие классификации ошибок в речи на неродном языке); провести эксперимент, выявить и проанализировать сделанные японскими учащимися ошибки с точки зрения влияния японского и русского языков; представить классификацию ошибок; на основе полученных результатов предложить отбору учебного методические рекомендации ПО материала и представлению его в японской аудитории.

Материалом исследования послужили письменные работы студентов Цукубского государственного университета (г. Цукуба, Япония) разных этапов обучения русскому языку.

Новизна исследования определяется что «отрицательный языковой материал» (ошибки японских учащихся, выявленные в результате эксперимента) анализируется как с точки зрения межъязыковой, так и внутриязыковой интерференции, что позволяет их классифицировать по принципу основной обусловленности. Результаты исследования могут помочь выявлению, учету и прогнозированию трудностей усвоения учебного материала, предотвращению и коррекции ошибочных употреблений в речи японских учащихся на русском языке. Кроме того, представленная классификация может быть использована не только непосредственно в практике преподавания рки и при составлении национально ориентированных учебных пособий, но и в лекционных курсах по лингвистическому описанию русского языка как иностранного.

(かとう ゆり,アブィヤカヤ オレーシャ,筑波大学)

【B07】SCORM 形式の小テストの作成について山田 久就

本発表の目的は、LMS (学習管理システム) に埋め込

むことができる SCORM 形式での小テストの作成につい て、その利点および問題点について考えることである。 昨今、いろいろな大学が LMS を導入してきている。 発表者の所属大学でも全学的に Manaba を導入している。 また、発表者の所属部署では Moodle も併用している。 Manaba でも Moodle でも内部形式で小テストを作成する ことができる。しかし、少しでもプログラミングの知識 のある教員(特に、語学教育の教員)にとっては、非効 率的で限定的に感じられる。そこで、外部形式で小テス トを作成し、LMS に埋め込むことが考えられる。Moodle では SCORM 形式などの外部教材を埋め込むことができ るが、Manaba ではできない。そこで、Moodle で動く SCORM 形式の小テストの紹介を行う。SCORM とは外部 教材を LMS に埋め込み、外部教材内の小テストの点数 などを LMS に引き渡すための規格である。SCORM 形式 の教材は、HTML ファイル内に Javascript でプログラム を書くことによって、作成することができる。

最初に、わかりやすいサンプルとして、色を意味する 12 の単語を示し、その色を選ぶ小テストを紹介する。 SCORM 形式の小テストであれば、開始ボタンを押すと、 その都度、プログラム的に、違う単語を示すことができ、 12 色の色の選択肢の順番もその都度変えることができる。

昨今、OS レベルで合成音声が準備されている。SCORM 形式の教材では、これを動的に利用することができる。 上で述べた小テストも、合成音声を利用することにより、 色を表す単語を文字ではなく音で学生に聞かせてテスト を行うことができる。

さらに、複雑な小テストでは、2,000 語ぐらいの単語を登録した XML ファイルを作成し、日本語の意味からロシア語の単語を書かせる小テストや、語形変化のパターンを登録した XML ファイルを作成し、名詞、動詞、形容詞などの変化形を書かせる小テストなども動的に行うことができる。

本発表の動機は、他大学、あるいは、そこの教員の取り組みについて情報を得ること、および、共同研究の可能性を探ることである。

(やまだ ひさなり,小樽商科大学)

【B08】現代標準ベラルーシ語の2つの規範をめぐって 清沢 紫織

現代ベラルーシ語は、19世紀後半から活発化していった作家による書き言葉としての使用の実践及び 1920 年代頃から本格化した政策的な標準語化のプロセスの中で正書法や文法規範の確立を達成してきた。1930 年代以降は、正書法が正式に定められ、多くの文法書や辞書が刊行されて現代標準ベラルーシ語はその規範を定着させていったといえる。こうしてソ連時代を通じて確立されてきた標準ベラルーシ語の規範は、独立後のベラルーシにおいても出版や教育をはじめ、ベラルーシ国内の様々な公的領域において公式に使用されている。

しかし一方で、ペレストロイカ末期頃より、ベラルー シ国内ではベラルーシ語復興の気運の高まりと共に、ソ 連時代を通じて確立されてきた標準ベラルーシ語の規範 を拒否し、より「真正な」標準ベラルーシ語の規範を復 興しようとする運動が一部の知識人やジャーナリストを 中心に盛んとなった。その際に支持されたのが1920年代 にベラルーシ語使用者の間で普及した規範である。この 1920年代に普及した規範は、1918年に B. タラシケヴィ チにより執筆・出版された『学校のためのベラルーシ語 文法』をその基礎としていたことからタラシケヴィチ正 書法と称されている。タラシケヴィチ正書法は、スター リン期の 1933 年に人民委員会議によって実施された政 治イデオロギー的な言語改革により一部変更が加えられ たが、ベラルーシ国外のベラルーシ人ディアスポラの間 ではソ連時代を通じて改革以前の規範が保持されてきた。 一方、現行の正書法は1933年の言語改革に基づく規範の 流れを組んでいることから、タラシケヴィチ正書法の支 持者によって言語改革を実施した人民委員会議に因みナ ルコモフカ正書法と呼ばれている。現在、タラシケヴィ チ正書法を用いたベラルーシ語使用は、反政府系ベラル ーシ語メディアやベラルーシ国外のベラルーシ語出版物 及び一部の知識人、ジャーナリスト、一般市民の間で実 践されており無視できない存在感をもっている。

本報告では、まず現代ベラルーシ語の標準語化のプロセスを歴史的観点から概観した上で、ナルコモフカ正書法とタラシケヴィチ正書法という2つの規範が生じていった過程を明らかとし、更に両者の具体的な違いを整理する。その上で、今日タラシケヴィチ正書法の存在が現行の正式な規範であるナルコモフカ正書法の国内への普及を達成する上で看過しがたい影響力をもっている点を指摘する。

(きよさわ しおり, 筑波大学院生)

【B09】ロシア語における関係節の統語構造: 束縛現象 からの考察

宮内 拓也

いわゆる理論言語学の枠組みでは、制限的関係節の構 造について主に3つの分析が提案されている:I.) 主要部 外在分析(Quine 1960, Chomsky 1977 など), II.) 主要部上 昇分析(Brame 1968, Åfarli 1994 など), III.) 照合分析(Lees 1961, Sauerland 2003 など). これらの分析は, 関係節の先 行詞, すなわち主要部となる名詞句をどう扱うかという 点でそれぞれ見解を異にしている.主要部外在分析では, 主要部は初めから関係節外に位置し, 節内には関係詞が 単独で生じ CP (Complementizer Phrase; 補文標識句)の指 定部に移動する. それに対し, 主要部上昇分析では, 主 要部は関係詞と共に関係節内に生成され、そこから表層 上の位置へ移動する. 照合分析では, 主要部外在分析と 同様に主要部は関係節の外部に生成され、CP 内では主要 部と同一指標の名詞句が移動し、削除操作を受ける. こ れら3つの分析を книга, которую Иван прочитал 「イヴ ァンが読んだ本」という句に適用すると, それぞれ(1a, b, c)となる(t は移動の痕跡を表す).

- (1) а. книга, [$_{\rm CP}$ которую $_i$ [Иван прочитал t_i]]
 - b. книга $_{i}$, [CP [которую t_{i}] $_{i}$ [Иван прочитал t_{i}]]

以上の2点を前提にして、主要部と関係詞の性・数・格に関する一致を考慮しつつ、関係節構造を含む句における束縛現象を観察する.その上で、ロシア語の関係節の統語構造について、主要部外在分析、主要部上昇分析、照合分析という3つの分析の利点、問題点を洗い出し、どの分析がロシア語という個別言語において妥当であるのか検討する.

(みやうち たくや,人間文化研究機構国立国語研究所 / 東京外国語大学院生)

【B10】ロシア語統語研究のためのイントネーションの 上昇・下降のモデル化

世利 彰規

本発表の目的は、ロシア語の統語論研究への応用のために統語論に関係するロシア語のイントネーションの動きをモデル化することである。ロシア語の語順の問題を現実文分節の立場から考えるためにイントネーションの上昇下降の基準を求めようと試みる。

本発表では従来の調音音声学の研究の流れとは違っ た立場から、ロシア語のイントネーションのモデル化を 試みる。調音音声学の分野においてロシア語のイントネ ーションは ИК (Интонационная конструкция) として研 究されてきた。イントネーションは統語論の分野とも関 係がある。ロシア語の語順を考えるとき、イントネーシ ョンによって新情報、旧情報が判別される。そのため、 統語論研究者はロシア語の語順について問題とするとき にイントネーションという完全に分野の異なる問題を考 慮しなくてはならなくなる。そこでイントネーションを 客観的に分析するための分類基準を考える。ロシア語の 語順に関係する新情報・旧情報の区別は、イントネーシ ョンが上昇しているか下降しているかによってなされる。 そのため、本発表でも、イントネーションが上昇してい るか下降しているかのみを判断する単純な分類基準を考 えることを目的とする。

現段階で次のような流れでモデル化を行うことを考 えている。まず WK によってイントネーションの動きが あらかじめ定義された文型 (平叙文、疑問文など) の例 文を音声データとともに集める。それから、ロシア語の 生の音声データを、音声解析ソフト praat (用意された自 己相関係数を用いたアルゴリズムを使う予定)によって 抽出する。次に、ベクトル形式で表現されたピッチ波形 を何らかの方法(現段階では最小二乗法を用いた一次近 似を考えている) で近似して、波形の傾きを求める。以 上の手続きを収集したデータそれぞれについて行い、近 似された波形の傾きがいくつ以上のとき、ロシア語にお いてピッチが上昇すると見なされるのか、いくつ以下の ときに下降していると見なされるのかの基準を求める。 この基準を考えるとき、もしもそれがある確率分布に従 っている場合、統計的な手法を導入するなどの工夫が考 えられる。余力がある場合には、構築したモデルをしか るべき方法で評価する。

なお、本発表は調音音声学の観点からのイントネーション研究とは直接の接点をもたない。また、言語データは、インターネット上のものを使用するため、文学研究とも無関係である。

(せり あきのり, 東京大学院生)

【B11】ロシア語における民族形容詞の統語的特徴をめ ぐって

後藤 雄介

形容詞の下位分類として、一般に、性質形容詞や関係 形容詞があげられる。Alexiadou & Stavrou(2011)は統語論 的観点から、関係形容詞はさらに3つに分類されること を指摘している。すなわち、Italian invasion「イタリアの 侵攻」における Italian など、民族や集団を表し、動作主 の意味役割を果たす民族形容詞(ethnic adjective)、 presidential election「大統領選挙」における presidential など、内項の意味役割を果たす指示的形容詞(referential adjective)、そして Persian carpets 「ペルシャのカーペッ ト」における Persian など、起源や、場所、町などに関 係する分類形容詞(classificatory adjective)である。 Alexiadou & Stavrou(2011)は、この3つの形容詞の内、民 族形容詞の統語的特徴に焦点を当て英語、(現代)ギリシ ア語、ロマンス諸語、スラヴ諸語の分析をしている。し かし、スラヴ諸語に関しては、少数の例しか挙げられて おらず、記述として不十分である。本発表の目的は、ロ シア語の民族形容詞がどのような統語的振る舞いを示す かを記述的に検討することである。

Alexiadou & Stavrou(2011)は、民族形容詞は分類形容詞と同音(homophonous)であることを述べている。また、上述のように、民族形容詞は動作主の意味役割を果たす。例えば、the unexpected aggressive Italian invasion to Greece「突然のイタリアのギリシアへの侵攻」という名詞句において、民族形容詞 Italian は動作主の意味役割を果たしている。さらに、民族形容詞は性質形容詞との等位接続の不可、程度を表す語との共起の不可、補部節中の空の主語(empty subject)をコントロールすることが出来る等、様々な特徴を示す。

ロシア語に関して調査した結果、ロシア語の民族形容詞は Alexiadou & Stavrou(2011)が指摘する振る舞いとは異なる場合もあることが分かった。例えば、民族形容詞が動作主の意味役割を果たしたり、程度を表す語との共起が不可能であったりするといった点等については、指摘通りの振る舞いを示した。しかし、民族形容詞は補部節中の空の主語をコントロールしないことも分かった。したがって、ロシア語の民族形容詞と英語やギリシア語の民族形容詞とでは、統語的な振る舞いに違いがあると言える。本発表では、ロシア語における民族形容詞の統語的振る舞いを記述することで、英語やギリシア語におけるそれと共通点及び相違点を示したい。また、所有代名詞や物主形容詞との比較も試みたい。

(ごとう ゆうすけ、東京外国語大学院生)

【B12】不完了体一般的事実の意味とアクショナルな意味—потому что が用いられた構文を例に—

恒任 翔吾

従来から不完了体一般的事実の意味とされてきた用例について Падучева (1996)は、動作の存在(有無)に焦点が当たる場合を「一般的事実の意味」とした一方、動作そのものから焦点が外れ特定の補語や状況語に焦点が当たる場合を「アクショナルな意味」と名付け、「一般的事実の意味」とは区別して論じた。従来の一般的事実の意味については「事実の名指し」という訳語も知られているが、Падучева が論じたのは、動詞が「事実」を指示する場合と、非焦点化された動作をまさしく「名指す」場合とは、明確に区別されうるということであるといえよう。

これを発展させた研究として、林田理恵(2007)の特殊 疑問文の研究が挙げられる。観察対象を特殊疑問文、す なわち動作そのものから焦点が外れテーマ化している用 例に絞ることで、「アクショナルな意味」の出現条件の記 述・説明を試みたのである。しかしこのような研究例が あっても、「アクショナルな意味」はいまだ広く認められ ているとはいいがたい。

したがって、本発表では、「アクショナルな意味」を「一般的事実の意味」から区別することの意義を改めて示したい。発表者・恒任の修士論文(2016)における потому что が用いられた複文の分析結果は、この区別の意義を、先行する研究とは異なる視点から、具体例をもって明確に示すものであると考えるからである。

恒任(2016)では потому что が用いられた複文の分析において,完了体は時間的起点(きっかけ),不完了体は継続的な原因(動機づけ,背景)を主として示すものであることが確認された。それらをプロトタイプとして不完了体の意味を検討した結果,「一般的事実の意味」はきっかけとしての特徴を示さず継続的な原因となりうるものであったのに対し,「アクショナルな意味」は結果に対して時間的に隣接して次の動作のきっかけとなるなど完了体的な特徴を示した。

これが示唆するのは、「アクショナルな意味」として不完了体が現れるときと「一般的事実の意味」として現れるときでは、потому что の用いられた構文自体が、文脈の中で異なる役割を与えられているということである。このように、「アクショナルな意味」は、少なくとも原因-結果という今回の文脈において「一般的事実の意味」とは混同しえない性質を示しているということを、本発表では例示していく。

(つねとう しょうご, 東京外国語大学院生)

【B13】ORにおける述語的用法の分詞と述語動詞の関係について

恩田 義徳

ロシア語標準語史において, OCS の能動分詞の短語尾 形が現代ロシア語の副動詞へと変わってゆくことはしば しば指摘されることである。OCS において分詞は動詞か ら派生し形容詞に準じる形態をとる。関係する名詞と性, 数、格において一致することで定語的に修飾したり、述 語動詞で表される動作に付随する動作を表したりとさま ざまな機能をはたす。述語動詞に付随する動作を表す分 詞(述語的用法の分詞)は通常主語に一致し、したがっ て主格形であらわれる。OCS の能動分詞短語尾形, 男・ 中性, 単数, 主格形は現在分詞で-e (一部の動詞では-y) の語尾をとり, 過去分詞では-vь (一部の動詞では-ь/-ь) の語尾をとる。これらの形態は現代ロシア語の副動詞に 通じる形態であると考えることができる。この短語尾形 の分詞が通時的変遷のなかで名詞よりも動詞との関係性 を強め、語形変化を失ってゆく、というのがロシア標準 語史上の定説である。この動詞と分詞の関係については ややあいまいで, 先行研究でははっきりとは示されてこ なかった。筆者はこの点をより明確にするために OCS の福音書テキストにおいて過去分詞と動詞の過去時制形 が並行して現れる例に注目した。つまりあるテキストで は過去分詞であらわされている動作が別のテキストでは 動詞の過去時制によってあらわされているという現象で ある。とくに過去分詞を用いた場合, 主語の連続する動 作はまず分詞によって, ついで動詞によってあらわされ る。これは過去時制の動詞を2つ並べることによっても 同じ内容をあらわすことができ,この場合には分詞と動 詞のはたす機能が近くなる。これついて筆者は2014年ロ シア文学会第64回全国大会で具体例を挙げて報告し、こ のような場合の分詞はもっぱら短語尾形であることを明 らかにした。つまり分詞は短語尾形において述語に似た 機能を持ちうることを示した。

本研究では対象を東スラブの最も古い時代の福音書テキストであるオストロミール福音書(1056-57年),アルハンゲリスク福音書(1092年)へと広げ、それぞれのテキストでの分詞と述語動詞の現れ方を比較検討する。これによってOCSとORとでは分詞と述語動詞の関係性にどのような違いがあるかを探り、ロシア標準語史上の分詞の変化について最も早い段階での状況を明らかにする。

(おんだ よしのり, 東京外国語大学)

【C01】ロシアの恋愛の魔術における「両親の拒絶」というモチーフ

山口 涼子

「通過儀礼」とは、出産、婚礼、葬礼など、人が生き る過程で、次なる過程に移るさいのイニシエーションの 儀礼である。通過儀礼の主人公はある状態から次の状態 へ移る過渡的期間を仮の死者としてみなされることが多 くある。通過儀礼に関する代表的な論文としては、アル ベルト・バイブーリン、ゲオルギー・レヴィントンが共 著で記した「葬礼と婚礼」がある。婚礼と葬礼の相似に ついて通常はアルノルド・バン・ゲネップが提唱した「通 過儀礼」で解釈されている。著書でゲネップは生命の循 環として、儀礼の参加者が行うステータスの移動を三段 階に分けている:分離・過渡(仮の死)・統合である。ロ シアにおける婚礼の研究は、多くの民族学者、フォーク ロア学者によって、花嫁の象徴的死が、ロシアの伝統的 観念であるとみなされてきた。花嫁の象徴的死は、家庭 儀礼のジャンルの一つである「泣き歌」の研究で盛んに 取り上げられている。

本発表では、「泣き歌」だけにとどまらず、花嫁の過渡が他のフォークロアのジャンルにおいても、主要なテーマであることを明らかにするものである。それは、「泣き歌」だけではなく、他の儀礼のテクストにも「生と死」をテーマにした伝統的表象が見受けられることにある。婚礼の「泣き歌」と同様に「恋愛の魔術」もまた男女が関係する儀礼的フォークロアである。しかし、「恋愛の魔術」は生命の循環の儀礼に直接かかわってはいない。そこで、「恋愛の魔術」では、「生と死」という伝統的表象と関連した、どのようなモチーフがあるのか見てみることにした。このテーマを研究することに関して、ロシアの農民の共通の神話的表象がいかに反映されているか、様々なジャンルの儀礼的フォークロアがいかに関連しているか理解することが大いに役立つ。

「恋愛の魔術」には、「両親の拒絶」というモチーフが存在する。このモチーフは「恋愛の魔術」において主要なものであり、「泣き歌」における「両親との別れ」というモチーフに類似する。「両親の拒絶」がいかなる意味を持つのか、現在まで語られることのなかった「泣き歌」と「恋愛の魔術」という二つのジャンルから、ロシアの婚礼に関する研究に新たな側面から「生と死」を問うてみることが本発表の目的である。

(やまぐち りょうこ, 同志社大学)

【C02】フロレンスキイの数

細川 瑠璃

本報告の目的は、20世紀初頭のロシアの思想家パーヴェル・フロレンスキイ (1882-1937) の思想の中で、数および数的なイメージが持っている意義を明らかにすることにある。

フロレンスキイは、モスクワ大学物理数学部で、数学者ニコライ・ブガーエフ(1837-1903)らのもとで数学を学んだ。フロレンスキイは、ブガーエフが抱いていた不連続関数への関心を受け継ぎ、数学的概念であった不連続性を他のあらゆる分野へ拡張し、ドイツの数学者ゲオルク・カントール(1845-1918)が基礎を築いた集合論と組み合わせて自身の世界観の柱の一つとしている。モスクワ大学卒業後、フロレンスキイは神学校に進学し司祭となる道を選ぶが、その後も数学はフロレンスキイの思想と常に切り離せないところにあった。

フロレンスキイは、最晩年にソロヴェツキイ強制収容所から書いた手紙の中で人生を振り返り、自身が先駆的役割を果たした学術分野を列挙している。その中の一つに「数の個別性(数-形)」という記述があり、幾何学的曲線の研究と形の研究の方法論が続く。フロレンスキイは1910年代から20年代にかけて、数やその個別性に関して度々記述を行っており、特に1922年には『形としての数』という著書を準備していた。同年に出版された著書『幾何学における虚数性』も、最終章では独自の天動説が打ち出され、賛否がこの点に集中したが、何よりもまず虚数という数、およびその数の特質を視覚的イメージとして捉えることに主眼がおかれていたことに注意する必要がある。

フロレンスキイは、神学的著作である『真理の柱と礎』の中でさえ神を「現実的無限」という数学上の概念を用いて表現しており、数学や数学上の概念がフロレンスキイの思想全体において重要な役割を果たしていることは明らかである。しかし、フロレンスキイの思想の数学的側面、とりわけ数そのものの役割、あるいはフロレンスキイのいう数がどのようなものであったのかについては、十分に考察されてきたとは言い難い。フロレンスキイの数は、数学の領域の中だけのものではなく、また、確かにフロレンスキイはカバラにも関心を示してはいたが、しかしカバラや数秘術の道具にとどまるものでもない。フロレンスキイの思想において、数は「思考と存在の第一義的なカテゴリー」であり、名と並ぶ存在の側面として検討されなければならない。

(ほそかわ るり, 東京大学院生)

【C03】スタニスラフスキー・システムのポドテクスト 内田 健介

コンスタンチン・スタニスラフスキーが作り出した俳優教育法であるスタニスラフスキー・システムには専門用語がいくつか含まれている。代表的なものに「究極課題(超課題)」、「一貫した行動(貫通行動)」、「放射」などがあり、これらの表現を用いながら、スタニスラフスキーは著書『俳優の仕事(俳優修業)』においてシステムによる方法を解説している。本発表ではそのシステムで使われる用語のひとつ「ポドテクスト」に着目し、その用語をめぐる問題について考えてみたい。

スタニスラフスキーは『俳優の仕事』の中で「ポドテクスト」を「表にはっきりとは現われないが内部に感じられる役の〈精神生活〉であり、テクストの言葉の下に途切れることなく流れ、たえずその言葉を正当化し生き生きとしたものにする」ものとはじめに定義し、このほかにも「役と戯曲の内的な流れ」など様々な表現を使って「ポドテクスト」の解説をしている。本発表では「ポドテクスト」が発話、テンポ・リズムといった俳優がセリフを発する際の授業で扱われていることに注目しながら分析し、その意味をより明確にしたい。そしてそのうえで、このスタニスラフスキーの使う「ポドテクスト」と彼以外の人物(主に弟子や孫弟子たち)の使う「ポドテクスト」では、異なった意味で用いられてしまっていることを明らかにする。

「ポドテクスト」は英訳のさいに「サブテクスト」と 訳され、それは言外の意味、つまり実際のテクストが語っていない隠された意味、という単語に訳される。この 英語の「サブテクスト」の意味自体がスタニスラフスキー・システムを背景に生み出された言葉とされている(以前は書かれたテクストの下の行のテクストを意味していた)。しかし、スタニスラフスキーによって『俳優の仕事』で解説されている「ポドテクスト」が持つ意味と、「サブテクスト」は完全に一致せず、さらに一般的なロシア語で使われる「ポドテクスト」も英語の「サブテクスト」と同様の意味を持つため、スタニスラフスキーがシステムにおいて使う「ポドテクスト」の意味と完全に一致していない。

これらの違いがなぜ生まれてしまったのかについて、最新の日本語訳である『俳優の仕事』の「ポドテクスト」の翻訳の問題点についても触れながら、「ポドテクスト」に関する言説を分析することでその原因を考えてみたい。 (うちだ けんすけ、千葉大学) 【C04】マリウス・プティパのバレエの実像

村山 久美子

振付家マリウス・プティパは、19世紀後半から20世紀初頭、サンクト=ペテルブルグの帝室マリインスキー劇場で首席バレエマスターを務め、今日頻繁に上演されている古典バレエのほとんどの原典版を創った。だが、プティパの作品は上演権が関係しないため、20世紀、とくにロシア革命以降現在に至るまで、「原典版を尊重しながらの現代化」を唱えながら、多くの振付家が改変を加えてきた。

バレエは上演されなければ消滅してしまう芸術であ るため、プティパの作品は、踊りの動きを記録するステ パーノフ式の舞踊譜に、バレエ作品とオペラのバレエシ ーン 100 作品が記録されたが、1918 年に帝室マリインス キー劇場舞台監督であったニコライ・セルゲーエフが西 欧に亡命する際に、それらの舞踊譜は持ち去られてしま ったため、ソ連時代国内ではその存在が忘れられていた。 だが、ソ連が崩壊し、欧米のバレエ界と交流が密になっ た時、マリンスキー・バレエの振付家セルゲイ・ヴィー ハレフが、舞踊譜がハーバード大学のシアターコレクシ ョンに保管されていることを知り、1999年に舞踊譜を解 読して、プティパ振付演出『眠れる森の美女』の復元上 演を行った。そして、この復元により、プティパの原典 版が現代の様々な版とかなり異なっており、プティパの 創作の実像が歪められ、正しい評価もなされてこなかっ たことが明らかにされた。ヴィーハレフの復元以降、プ ティパの作品の復元の試みはヴィーハレフ、アレクセ イ・ラトマンスキーなどによって進められており、今年 は、これまで作品のイメージを破壊する恐れがあると着 手されてこなかったバレエの代表的存在『白鳥の湖』の 復元が、チューリッヒ・バレエ団とミラノ・スカラ座バ レエ団で、ラトマンスキーの手により行われた。

本報告では、20世紀以降多くの改変が行われ実像がわかりにくくなっていた『白鳥の湖』を中心に、プティパのオリジナルの振付演出を分析し、その実像を明らかにし、さらに、とくにソ連時代に改変、削除された部分について検討したい。

(むらやま くみこ,早稲田大学)

【C05】「グリンカ期」におけるオドーエフスキーの音楽思想-作曲家グリンカとの関わりをめぐって

三浦 領哉

本発表は、ウラジーミル・オドーエフスキー(1803-1869) における国民楽派期の音楽思想について、特に作曲家ミ ハイル・グリンカ(1804-1857)との関わりから検討するも のである。発表者はこれまで「前グリンカ期」、すなわち オドーエフスキーの初期における音楽思想、わけても 1820 年代から 30 年代前半における音楽哲学について研 究を進めてきたが、この時期におけるオドーエフスキー の論点は「音楽の本質」に集中していた。それはすなわ ち新プラトン主義とドイツ観念論の思想に依拠しつつ、 音楽の基本要素を「調和」に置き、音楽の本質を「調和」 と「非調和」の止揚にあるとするものであった。しかし 1835年以降、オドーエフスキーの音楽思想は音楽の本質 をめぐる「音楽哲学」から、どのような音楽こそがある べきかという広義の「音楽美学」へと変化し、さらにそ の議論の中心は「ロシア独自の芸術音楽とは何か」とい う点へと移行していく。つまり、オドーエフスキーの音 楽思想の焦点は、「音楽の本質」という極端にマクロな視 点から、「ユニヴァーサルな音楽美」、そして「国民主義 的音楽美」というミクロな視点へと徐々に変化している のである。

1835年以降における、オドーエフスキーの主な評論対象は、グリンカをはじめとする「国民主義的」作曲家たちの作品である。とりわけグリンカの 1836年のオペラ《皇帝に捧げた命》、1842年の《ルスランとリュドミーラ》に対しては上演を重ねるごとに頻繁に評論を寄せており。そもそもこれらの作品の作曲をグリンカに促した人物こそがオドーエフスキーであるとされている。グリンカは 1830年からイタリアに留学し作曲技法の研鑽に励んだが、その途上において「ロシア固有の芸術音楽」の追求を始めた。このことには、1830年代前半以来のオドーエフスキーとグリンカの親交が大きく関わっているとされる。

本発表では「グリンカ期」、すなわち 1835 年以降のオドーエフスキーの音楽評論を中心に、グリンカとの関わりをめぐる彼の音楽思想上の特徴について考察する。

(みうら れいや,早稲田大学院生)

【C06】モノ・オペラ《アンネの日記》—ナチス時代の 少女を描く「現代音楽」

神竹 喜重子

1960-70年代のソ連において多く作曲されたモノ・オペ ラは、主としてアウトサイダーや子ども、犠牲者等を描 いている点で、それまでの壮大なオペラとは対極にあっ た。これら一連の作品の中で, グリゴリー・フリード (1915-2012) による《アンネの日記》(1969) は、比較 的早い時期に作曲されている。つまり、フリードがナチ ス・ドイツの犠牲者であるアンネの運命をオペラの題材 として用いたことが、当時のソ連音楽にあって、ひとつ の新しい潮流を生み出した可能性がある。また、この作 品は、ソ連で作曲・初演された(初演は1972年にモスク ワで行われた)が、近年に入りドイツでも盛んに上演さ れるようになった。つまり、ソ連時代の作品が現代ドイ ツの意識のもとで上演されているわけである。本報告で は、このような《アンネの日記》について、①作曲家グ リゴリー・フリード、オペラ《アンネの目記》、ソ連のモ ノ・オペラ、②台本をめぐる問題、③音楽表現とその意 味、④ドイツでの上演の4つの観点より議論を行い、ロ シア音楽史におけるこの作品の再評価を試みる。

書籍の『アンネの日記』をオペラとする際にまず問題となるのは、長大な原作を台本としてどのように作り直すか、ということである。このオペラの台本を、フリードは自分で作成した。その際に彼は、原作をもとに会話を新たに作成するのではなく、書籍から適宜抜き出し、アンネの独白として作曲する方法を取った。そこで注目すべきは、アンネがロシア戦線に思いを馳せ、ナチス・ドイツが早く敗北することを願うテクストの存在である。これは全曲で唯一、アンネが「戦いでの勝利」を思う部分なのだが、原作の『アンネの日記』を読むと、ソ連戦線よりもむしろ西部戦線について記述が多く割かれている。つまり、アンネにとっては「戦いでの勝利」はむしろ西部戦線について感じる意味合いが強かった。しかしフリードはあえて、ロシア戦線についての記述をオペラのテクストとして選んだのである。

アンネがソ連軍の進軍について語る部分のテクストが 選ばれた背景には、この作品がロシアで上演されること を想定している、ということも考えられなくはない。し かし、もうひとつ、ロシア/ソ連のフリードがアンネを ファシズム(もしくは不正)との戦いにおいて倒れた「自 分たちの仲間(同志)」として位置づけようという意図が あるとも考えられる。

(かみたけ きえこ,一橋大学/北海道大学)

【C07】イアキンフ・ビチューリンと中国文化

畔栁 千明

イアキンフ・ビチューリン (1777-1858) は、ロシア最初の中国研究者の一人である。彼のキャリアで特筆されるのが、18世紀以来ロシアに派遣されてきた「北京宣教団」に第9次宣教団長として参加し、1809~1821年に北京に滞在していることである。本発表においては宣教団の一員としてのビチューリン像を提示し、彼がどのように中国を理解したのか、彼自身の著作に基づいて分析する。

「北京宣教団」(1715-1954)とは、約10年に一度、約10人の男性がロシアから北京へ派遣され遊学を行う慣行である。宣教は実質上行われず、寧ろ中国語・満洲語・モンゴル語を使用可能な専門家育成の場として機能した。団員の多くは帰国後外務省アジア局に翻訳官として勤務し、国内での教育にも携わることになる。

ビチューリンの中国理解について、本発表では、中国哲学に関する著作を中心に考察する。ビチューリンのオリジナルな点は、儒教を宗教として評価したということである。ビチューリンは儒教を「学者たちの宗教」と翻訳している。しかし、この訳語はロシアの研究の展開から見れば例外的である。ビチューリンより後のロシア中国学者は儒教を無神論と見なした。例えば、カザン大学、後サンクトペテルブルグ大学で教鞭をとったワシリー・ワシリエフ(1818-1900)は、1873年の著作『東洋の宗教:儒教、仏教、道教』において、儒教が宗教でないのは自明であると述べ、儒教は「社会的・政治的な教え」であるとした。儒教が宗教か否かという問題は、単なる教義の理解を超えて、それを基礎とする社会に対する評価も左右する。ワシリエフは儒教のあり方が「中国の停滞と没落の原因」であると結論するに至った。

しかしワシリエフと違い、ビチューリンは儒教の中の「宗教」要素を切り捨てない。彼は中国哲学のテクストを翻訳する際、音訳ではなく、「神」など、キリスト教の言葉を用いるのである。

彼は儒教を彼の知るキリスト教、つまり正教との比較で捉え、両者の間に共通点を見出した。ビチューリンは常に中国への共感を表明していたが、その態度はここにも表れている。彼のこうした姿勢は、常に同時代のロシア知識人の中に反響を呼んだ部分でもある。

こうしてロシアにおける中国理解は19世紀初頭、北京宣教団から始まったのである。

(くろやなぎ ちあき, 東京大学院生)

【C08】シャベリスキー - ボルクの歴史物語『預言修道士』をめぐって

塚田 カ

シャベリスキー・ボルクは 1896 年キスロヴォツク出身。第一次大戦に従軍し黒百人組構成員として活動した後、1918 年にベルリンへ亡命した。1922 年に V.D,ナボコフ (作家 V.V.ナボコフの父) らの死傷を招いたミリュコーフ元外相殺害未遂事件に参加したため、1927 年まで投獄される。その後ナチス支持者としてベルリンのロシア人社会で活動した後、戦後アルゼンチンへ再亡命し、1952 年にブエノスアイレスで没した。

彼が 1931 年にハルビンで«Хлеб духовный»誌に発表し、没後の 1955 年にサンパウロで発行された『Павловский гобелен』に採録された歴史物語『Вещий инок (預言修道士)』は、「修道士アヴェルの預言」を主内容としており、ペレストロイカ以降にロシアで再版された。修道士アヴェルが皇帝パーヴェル1世に語ったとされるその預言は、19世紀以降の史実をいくつも言い当てているとされており、かつ、「ニコライ2世が神の子のようにその民に裏切られる」というものであった。

『Вещий инок』のさまざまな内容は史実とかけ離れており、極めて疑わしいという史料に基づく有力な指摘があるにもかかわらず、それを史的事実として理解する人々が後を絶たない。今も皇帝ニコライ2世が単なる受難者や致命者ではなく、イイスス・ハリストスと同格の贖い主であるとするツァレボージエ説の理論的根拠として広く読まれている。

本報告では、上述の『Вещий инок』をハルビンおよび サンパウロで発行されたテキストに基づき紹介し、同時 代の亡命社会におけるその受け止めと、現代における正 教極右派による再評価の動きについて考察したい。

(つかだ つとむ,通訳業)

【C09】東京復活大聖堂(ニコライ堂)のイコノスタシス・プログラムをめぐって

宮崎 衣澄

本報告では、1880年亜使徒ニコライ(1836-1912)の注 文によって、B.ペシェホーノフ(1818-1888)が制作した 東京復活大聖堂(ニコライ堂)の旧イコノスタシス・プ ログラムに焦点をあて、他のペシェホーノフによるイコ ノスタシス、ペテルブルグの聖イサク大聖堂をはじめと する当時の教会堂におけるイコノスタシス・プログラム との比較・分析によって、ニコライ堂の旧イコノスタシ スの特徴を明らかにすることを試みる。

ニコライ堂の旧イコノスタシスは、当時第一流の宮廷付イコン画家であった B.ペシェホーノフが手掛けたイコノスタシスであったにもかかわらず、関東大震災で焼失したため、現在までほとんど研究が行われてこなかった。しかし、ニコライ堂の旧イコノスタシスは、55点のイコンと王門から構成される、5層構造の大型のイコノスタシスであり、19世紀ロシア・イコン研究において重要な資料となりえる。またイコンの主題選択や配置には、ニコライの意思決定が大きな役割を果たしたと考えられることから、ニコライの日本伝道の一端を示す可能性がある。

これまでの研究で、ペシェホーノフは当時「ギリシア風」イコン画家と評され、中世ロシアやヴィザンティンの図像を源泉とした伝統回帰のイコン様式で評価されたイコン画家であることが明らかになっている。ニコライ堂の旧イコノスタシスも、18-19 世紀初頭のペテルブルグを席巻したアカデミー様式のイコンではなく、中世ロシア伝統回帰の潮流にある。一方でニコライ堂イコノスタシスの第一層のイコン《幼児福音》は、西欧宗教画を図像的源泉として19世紀以降ロシア・イコンの主題として定着した新しい図像であり、イコノスタシスを構成する他のイコンとは性質が異なる。なぜイコン《幼児福音》は、ニコライ堂の旧イコノスタシスに入ったのだろうか。

本報告では、イサク聖堂のイコノスタシス等を参照してニコライ堂の≪幼児福音≫の図像的源泉を探ると同時に、ニコライの日記や日本ハリストス正教会の資料を手掛かりに、ニコライの日本伝道に対する意識に着目し、ニコライ堂の旧イコノスタシスの特徴を分析する。

(みやざき いずみ, 富山高等専門学校)

【C10】府主教アントニイ・フラポヴィツキイの讃名派 駁論:「心理主義」の宗教思想

渡辺 圭

本発表では、府主教アントニイ・フラポヴィツキイ (1863 - 1936) の讃名派駁論について、彼の思想の特徴 とされる「心理主義」の概念を用いて考察する。

府主教アントニイは、ロシア正教史にその名を刻んだ宗教指導者、神学者、説教者であり、教会著述家としては、数多くの論文、説教の言葉を残している。歴史的に見ると、彼の名は主として以下の2点で注目される。①1917年、200年間廃止されていた総主教制が復興されるに際して候補者の一人であった。②在外シノドのリーダーであった。しかし、本発表では、①と②の間、すなわち、20世紀初頭の讃名派論争に着目する。そこで府主教アントニイは、讃名派に対して反異端的言説とする態度をとったのである。

P.エフドキーモフは、『ロシア思想におけるキリスト』 (1970年) において、府主教アントニイの思想を「敬虔主義的心理主義」と規定している。A.F.ザマレーエフは、『ロシア宗教哲学:9-20世紀』(2007年) において、府主教アントニイを「人義論的哲学」の文脈で紹介している。両者ともに、府主教アントニイの思想的傾向の抽出に際して彼のマギストル論文『意志の自由と道徳責任のための心理学的根拠』(1888年) を分析していない、という点で共通している。発表者は、考察を通じて、議論の前提として府主教アントニイの思想における同論文の重要性について言及する。

本発表の直接的な先行研究としては、主教イラリオン・アルフェエフの讃名派研究『教会の聖なる秘密』(2巻本、2002年)が挙げられる。同書において主教イラリオンは、府主教アントニイの讃名派の修道士に対する無理解を強調しているが、彼の讃名派論『神聖なる正教と神名論の異端』(1916年)は取り上げられていない。従って、本発表では同論考の考察が中心となる。

以上のように、本発表から得られる新たな知見は、府 主教アントニイの宗教思想研究に寄与するものと見込ま れる。

(わたなべ けい, 千葉大学)

【 P01 】 パネル Динамические аспекты средневековой славянской письменности: Текст, язык, образ повествования

Данная панель посвящена анализам разнообразных аспектов средневековой славянской письменности. Особо рассматриваются межтекстуальные связи межлу каноническими и неканоническими текстами, параллели и различия славянской и неславянской письменностей, а также творческая деятельность средневековых книжников в славянских землях.

Модератор Кэйко Митани

Доклады

1. Влияние «Книги пророка Иеремии» на «Слово о полку Игореве»

Александр Ужанков (НИИ культурного и природного наследия имени Лихачёва)

Изучать «Слово о полку Игореве» необходимо в контексте мировоззрения XI-XII веков, когда древнерусские писатели находили аналогии поступкам русских князей в Ветхозаветных книгах.

«Слово» начинается описанием солнечного затмения, хотя оно произошло на 8-й день похода. Это художественный прием автора: весь поход Игоря показан во тьме, создается образ ночи. У князя Игоря Святославича - затмение души, по гордыне своей отправляется он в поход за славой. А в природе затмение солнца. Оно происходит 1 мая, в день памяти пророка Иеремии, и автор использует его книгу как духовное основание «Слова».

Пророк Иеремия описывает поход иудейского царя Седекия в Египет к Нилу, его поражение, плен и оплакивание царя его женой. Автор «Слова» описывает поход князя Игоря в Половецкую степь к Дону, его поражение, плен и оплакивание князя его женой Ярославной.

докладе рассматривается ретроспективная историческая аналогия и эпифаническая связь событий, дается их интерпретация.

2. Андрей Юродивый из Царьграда и Исаакий из Киево-Печерского монастыря попытка сравнительного исследования византийского древнерусского юродств

Киёхару Миура (Университет Электрокоммуникаций)

Юродство — это специфическое религиозное явление средневекового Христианства, как восточного, так и западного. Так как Средневековая Русь приняла христианство из Византии, то и юродство в России было

византийского типа. Однако если рассмотреть эти явления в каждой из названных стран более детально, то между ними можно обнаружить существенную разницу. Например, византийский юродивый не обязательно был умственно неполноценным человеком, он был психически здоров, но во имя Христа и для усиления аскетизма играл роль сумасшедшего. На Руси же сумасшествие юродивого не было притворным или наигранным. Этот психический воспринимался людьми как специфической способности общения с божественным миром.

В предлагаемом докладе мы хотим выявить и исследовать сходства и различия между двумя типами юродства – византийского и древнерусского. В качестве объектов для сопоставительного анализа мы выбрали (Византия) Андрея Юродивого И Исаакия Киево-Печерского монастыря (Древняя Русь).

3. Откуда пришло «Слово о 12 снах Шахаиши» на Pycь в XIII - XIV вв.?

Фумиаки Хаттори (Киотский университет)

«Слово о 12 снах Шахаиши» (далее СШ) древнерусский переводной памятник, восходящий к восточному источнику. Эта повесть причисляется к апокрифическим сочинениям, и её содержание состоит из эсхатологических предсказаний. Эти предсказания изложены в манере снов-загадок царя Шахаиши и их толкования мудрецом-философом по имени Мамера. СШ сохранено в русских и южнославянских списках и известно под разными заглавиями. В данном докладе рассматривается вопрос о приходе СШ на Русь в XIII -XIV вв. Особое внимание уделяется текстологическому анализу древнейшего списка русской редакции и южнославянских списков СШ.

«Сказание о Сивилле»: Славянские списки сказания о пророчице с гусиной ногой Кэйко Митани (Токийский университет)

Доклад будет посвящен исследованию славянских

редакций «Сказания о Сивилле». Сказание о Сивилле было весьма популярно в славянской письменности, списки распространялись в России, Украине, Чехии и

южнославянских землях. Славянские списки разделяются

на три группы по редакциям.

В докладе исследуется различие между тремя редакциями, причина и импликация текстуальных изменений, наблюдаемых в русских списках «Сказания». Рассматривается также межтекстуальное отношение «Сказания» с другими апокрифическими текстами.

【P02】パネル モスクワ・コンセプチュアリズム:活動とその理論化の「はじまり」を再考する

本パネルセッションでは、1970年代初頭に始まったとされ、現在モスクワ・コンセプチュアリズムと定義されているソヴィエト非公式芸術の活動の再考を試みる。

近年、参加型アートや恊働型アートといった動向が興隆するなか、鑑賞者の主体的な参加によって成立する「集団行為」などのソヴィエト非公式芸術が注目されている。
20世紀における美術のなかでも特異な状況のもとに発達したソヴィエト非公式芸術であるが、鑑賞者の積極的な参加や集団的な作家性といった特徴が注目されるものの、ソヴィエト非公式芸術のなかでの世代ごとの変化や、問題の継承といった視点は見過ごされている。

一方、本国では、こうした非公式芸術の「歴史化」、「アーカイヴ化」、「ミュージアム化」が進められており、ソヴィエトの文脈にとどまらず、世界の芸術・文化史全体を視野に入れた位置付けが積極的に行われつつある。そのなかでもモスクワ・コンセプチュアリズムは、当時の西側諸国で広まったコンセプチュアルアートと共通性があり連動してはいるものの、閉じた環境で受容されていたため、その詳細は未解明なところが多い。また、文学や音楽などといった他分野との相互影響、さらには作品の制作及び発表のみならず、そうした行為全般を客体化するための研究をも自らの活動に含めようとするモスクワ・コンセプチュアリズムは、芸術潮流を超えた一種の文化形態としても見ることが可能ではなかろうか。

このような観点から当時の芸術家たちを捉えた場合に、我々は、現在拡張傾向にあるモスクワ・コンセプチュアリズムの範囲を定義する困難さを前に、次のような問いを立てることが可能となるように思われる。たとえば、のちにモスクワ・コンセプチュアリズムの主流を外れたが、この芸術運動の先陣を切ったソッツアートは、モスクワ・コンセプチュアリズムのなかでどう位置付けられるのか。コンセプチュアリズムは、前時代のノンコンフォルミズムとどう接続/区別されるのか。あるいは、「歴史化」の作用を自らの内に内包しているとみなされるコンセプチュアリズム自体が、どのように生起し、発展し、今日に至るまで生き延びてきたのか。

このような課題のもとに、現在進行形の動向を視野に入れながらも、近年公開が相次ぐソヴィエト非公式芸術の資料を考察することを目的とし、当パネルの発表者たちによって「ロシア現代アート研究会」が組織された。今回の研究発表では、ソヴィエト非公式芸術の系譜を明らかにする一歩として、モスクワ・コンセプチュアリズムの起源を考察することを試みる。

発表

1. モスクワ・コンセプチュアリズム——始まりと生成 神岡理恵子(早稲田大学)

神岡は、モスクワ・コンセプチュアリズムという芸術 運動が当初どのように始まったのか、再考する。とりわ けカバコフや、コーマル&メラミード、チュイコフをは じめ、この運動の形成に重要な役割を果たしたと現在定 義づけられている作家たちの初期作品や言説に注目し、 非公式芸術の流れのなかで、それらがどう新しく、どの ように芸術運動が形成されていったのか考える。当時ま だ「モスクワ・コンセプチュアリズム」というグループ / 定義がないなかで、当事者たちは自身の活動をどう捉 え位置づけていたのか。前時代との比較や同時代の西側 の動向の影響も視野に入れ、考察を試みる。

2. 『集団行為』の記号作用はいかにして始まったか 生熊源一(北海道大学院生)

生熊は、モスクワ・コンセプチュアリズムの中心的グループである「集団行為」の初期の活動に目を向ける。その際問われるのは、現在我々が抱えているイメージが当初の「集団行為」の姿と完全には一致していない可能性である。たとえば、彼らの活動の大きな特徴とみなされる言説性や物語性、メディアによる莫大な記録、さらには宗教的・形而上学的領域への関心。これらが1976年当時から存在したのか、そうでなければどのように育まれてきたのかを検討することは、決して無駄な作業にならないだろう。転機とみなしうる1980年を節目として、「集団行為」以前の前史から「集団行為」初期までの実態を明らかにする。

3. 起源と総括──雑誌『A-YA』について 河村彩(東京工業大学)

河村は、1979年に発表されたボリス・グロイスの論考「モスクワ・ロマンティック・コンセプチュアリズム」の再考を出発点とすることで、この運動の理論化、歴史化がどのように始まっていったのかに注目する。ソヴィエト非公式芸術を海外に紹介する目的で、英露バイリンガルで出版された《A-SI》誌(1979-1987)1号の巻頭を飾った当論考は、この芸術運動に対して初めてコンセプチュアリズムという語を使用したものとしても知られる。この雑誌の試みを再検討することで、これらの記事に現れた精神性や宗教に関わる問題、芸術活動の記録とその保存をめぐる問題、「非公式」芸術家としてのアイデンティティーの問題等を考察する。

【P03】パネル Трогать, видеть, слушать: новые подходы к новой литературе (на примере Маканина, Пригова и Алексиевич)

Прошло больше четверти века после распада Советского Союза и уже накоплено достаточное количество самых разнообразных дискурсов: отзывов, критик и обзоров о современной русской литературе. В настоящее время многие исследователи начали поиск подходящих литературоведческих методов в соответствии с особенностями творчества отдельных «новых» авторов. На данной сессии планируется обсуждение творчества трех писателей, стили и жанры которых во многом отличаются друг от друга, но мы пытаемся применить все же общий методологический подход к мотиву телесного восприятия в литературных текстах: осязание (вещь), зрение (видение) и слух (голос).

3 докладчика являются представителями разных стран, но принадлежат к одному поколению. Можно сказать, что они начали свою научную деятельность как раз в период распада СССР и развитие их исследовательской деятельности совпадает с историей постсоветской литературы. На основе их опыта будет предпринята попытка выработать новые подходы к «новой» литературе на примере творчества каждого писателя: Владимира Маканина, Дмитрия Пригова и Светланы Алексиевич.

Председатель

Тецуо Мотидзуки (почетный профессор Университета Хоккайдо)

Комментатор

Валерий Вьюгин (Университет Сайтама/ институт русской литературы РАН)

Доклад1

1 . Бытие вещества в современном русском литературном процессе: на базе творчества В. Маканина в 1990-х годах

Тян Хунминь (Шанхайский педуниверситет)

В современной русской литературе наблюдаются две разных направления традиционной и внетрадиционной поэтики. Первые писатели пытаются строить свои повествования по определенным сложившимся правилам в истории русской литературы, а вторые стремятся войти в русло мирового современного литературного процесса. При этом решающую роль в построении внетрадиционной поэтики играет бытие вещества в постсоветской литературе. Предметом данного доклада

являются онтологические интерпретации о литературных силах вещества в произведениях Владимира Маканина и, отчасти, Владимира Сорокина.

Доклад2

2. Video, ergo sum: Д.А.Пригов и проект «тотального» виления

Ли Чжи Ен (Университет иностранных языков Хангук)

Наш доклад исследует словесные и визуальные произведения Дмитрия Пригова, инициатора московского концептуализма. В частности, предметом исследования являются его инсталляции как машина видения, видения незримого. Пригов в вербальных работах часто употребляет выражение «вот я вижу», в котором отражается лейтмотив его визуальных работ -«всевидящее око» - как символ власти, и одновременно дейктический центр «видения здесь и сейчас». В данной работе через анализ образа глаза исследуется проблема видения у концептуалиста Пригова, в частности его попытки «видеть видения»; в связи с этим рассматривается его эстетическая стратегия превращение трансцендентности в перформанс сдвига в пространстве игровом театральной инсталлянии. абсолютизирование сиюминутности перформативного присутствия.

Доклад3

3 . Как слышится голос советского человека: эстетическая поэтика в творчестве Светланы Алексиевич

Го Косино (Университет Хоккайдо)

Как известно, в произведениях Светлана Алексиевич представлены «голоса» маленьких советских людей, собранных в виде интервью во время полевых исследований. Жанр ее творчества иногда считается документальной литературой (нон-фикшн) или устной историей (oral history). Но было бы нерезонно рассуждать, что эти записанные «голоса» прямым образом передают жизни рассказчиков. Ланные реалии «голоса» оказываются отредактированными и расставленными по своеобразной эстетической поэтике автора, который никогда не выступает на поверхность текста. Мы рассмотрим, что слышится и что не слышится через литературные тексты в «голосе» советского человека.

【P04】パネル 20 世紀前半のロシア文化における自 叙の問題

事実と虚構、自伝とフィクションの別は分明なものではない。たとえば三島由紀夫の『仮面の告白』は、自伝的小説というジャンルの約束事を逆手に取った「虚構の自伝」と言われるが、作中の記述に作者が実際に体験した感覚や情念が投影されていないと誰が確言できるだろう。その逆に、著者が主観的には過去の経験や見聞を正確に記述しようと心がけても、個々の記憶を作中にどのように配列し、意味づけていくかという判断には、現在(執筆時点)の価値観や認識が不可避的に浸透してくる。

日記や、いわゆる第一次資料であっても、それが言説であるかぎりは、著者の取捨選択や判断が入り込んでいるため、「事実」そのものと見なすことはできない。それらが自伝や回想より「事実」に近いことは確かだろうが、両者の差違はあくまで相対的である。

このように、自伝的言説のうちの何が事実で何が虚構であるかを峻別するすべはあらかじめ失われているのだが、にもかかわらず、私たちには、自伝的な叙述が何ほどか「事実」に根ざしているという感覚がある。日記は回想より「事実」に近いと直観する、その根拠となっている感覚である。

言葉にすれば堂々巡りになってしまう自伝的言説における「事実」と「虚構」の問題について、このワークショップは明確かつ固定的なモデルの提示を意図してはいない。ロシアの作家や思想家が歴史の意味や、歴史の中での自己定位の問題に鋭い関心を持ち続けてきたことは既にしばしば指摘されてきたところだが、とりわけ激動の時代だった20世紀前半の自伝的諸言説(「虚構の自伝」、自伝的小説、自伝、回想、書簡、日記等)を対象として、その叙述における「事実」と「虚構」が切り結ぶ諸相を具体的に記述し、考察することこそが目的である。考察の際には言説(「語り」)や作品構成の分析、当該時期のロシア(ソ連)におけるジャンルとしての「自伝」の位置づけ、自伝的言説と周辺資料の比較対照等、多様なアプローチが試みられる。

司会:中村唯史(京都大学) 対論:八木君人(早稲田大学)

発表

1. アレクサンドル・ブローク、自叙と回想 奈倉有里(東京大学院生)

A. ブローク (1880-1921) による「自伝的メモ」、「日記」、「手帳」、さらに自伝的な韻文作品といった自叙的な文書は、同時代の人々の回想や書簡などと突き合わせたとき、どのような符合と齟齬を示すだろうか。両者の齟

断が顕著な場合、そこにはいかなる要因が見出せるのか。
そこから浮かびあがってくるブロークの詩作の特色とは
どのようなものか。近年公開の進んだアーカイヴ資料も
用いて、具体例に沿って検証する。

2. 記憶に基づかない回想: 亡命の子どもたちの作文から

大平陽一 (天理大学)

1923 年、モラヴィアのロシア語ギムナジウムにおいて「1917 年からギムナジウム入学までの私の回想」という作文が課された。これらの作文が注目を集めたため、翌24 年には規模が拡大され、ロシア国外の15 のロシア語ギムナジウムに学ぶ生徒が同じテーマの作文を書いた。それらの中には曖昧な記憶に基づく作文、実体験をあえて虚構であるかのごとく装った作文が散見される。このような回想の分析を通じて「自叙」について考えてみたい。

ヴァシーリイ・トラヴニコフとは誰か? 武田昭文(富山大学)

『ヴァシーリイ・トラヴニコフの生涯』(1936) は、文学史的ミスティフィケーションの作品である。作者ホダセーヴィチは、プーシキン以前に実在した先駆的詩人として設定したこの人物の中に、おのれの文学観と伝記的なアナロジーを少なからず書き込んでいるが、それはどのような意図と欲望に基づくものであったのか。本作品の分析を通じて、ホダセーヴィチにおけるロシア文学との〈対話〉ないし〈闘争〉のさまを考察したい。

4. 20 世紀ロシアの作曲家の自叙 梅津紀雄(工学院大学)

弟モデストによるチャイコフスキーの評伝 (1900—02) やリムスキー=コルサコフの回想録 (1909) の出版は、作曲家が残した自分自身や自作についてのテクスト (自叙) が後年の作曲家像や作品解釈を左右し得ることを示唆した。多くの 20 世紀の作曲家は、自叙的なテクストが持つそうした意義を意識して自覚的に綴っていったと考えられる。本報告では、ストラヴィンスキー、プロコフィエフ、ショスタコーヴィチの実践について比較検討を行いたい。

日本ロシア文学会活動記録(2015~2016)

1.2015 年度(第65回)大会

第65回大会(定例総会・研究発表会)は2015年11月7日(土),8日(日)の両日,埼玉大学で開催された。

11月7日(土)

午前 開会式,研究発表会

午後 理事会,研究発表会,大賞受賞記念講演,定例総会, 懇親会

11月8日(日)

午前 研究発表会

午後 各種委員会,研究発表会

2. 研究発表会内容

研究発表

第1会場:7日午前・午後,8日午前

1階シアター教室

11月7日 (土) 午前 (ブロック①)

[司会] 鳥山祐介、三好俊介

A01 山下大吾:『青銅の騎士』における西洋古典的要素について)

A02 菅原彩: レールモントフの物語詩『ムツイリ』における空間

A03 井上幸義:レールモントフの物語詩『デーモン』の タマーラとバラード『タマーラ』の同名の主人公

11月7日(土)午後(ブロック④)

[司会] 佐々木寛、越野剛

A07 斉須直人:ザドンスクのチーホンとドストエフスキー:マリーと子供たちについてのムイシュキンの語りにおける聖者伝的伝統

A08 上西惠子: 『罪と罰』における視覚動詞 глядеть の機能

A09 泊野竜一: ドストエフスキーと 19-20 世紀の文学に おける対話表現での分身

A10 Natalia Tarasova: The meaning of graphics in creative manuscripts of F.M. Dostoevsky

11月8日(日)午前(ブロック⑦)

〔司会〕平松潤奈、大森雅子、中野幸男

A12 石原公道:ブルガーコフ学成立試論

A13 古宮路子: オレーシャ『羨望』手稿のヴァリアント を巡る問題

A14 古川哲:1930年前後のプラトーノフ作品における空虚なもの

A15 野中進: V.グロスマンの長編小説におけるメトニミー的原理 (『正義のために』と『人生と運命』)

A16 笹山啓:ペレーヴィンはなにから目覚めるのか

第2会場:7日午前・午後,8日午前

2 階 11 番教室

11月7日(土)午前(ブロック②)

[司会] 小林潔、柳町裕子

B01 Zhdanov V., 鈴木淳一: Художественный текст как базовый фактор формирования лингвокультурологической компетенции

B02 黒岩幸子:日本のロシア語教程における「硬・軟母音」の起源と定着について

B03 Svetlana Latysheva : Роль диктантов в обучении

японских студентов русскому языку

11月7日(土)午後(ブロック⑤)

[司会] 毛利公美、久野康彦

A11 河畠孝子: エルショーフ (1815—1869)『魔法の仔馬 Конек-Горбунок』後の作品にみる文学的志向——生誕 200 周年によせて

C01 三浦領哉:「前国民楽派」期のB.Φ.オドーエフスキーにおける音楽思想の変遷

C02 一柳富美子:演奏会及び劇場上演データに見る 19 世紀ロシアの音楽界

C03 生熊源一: コンセプチュアリズムとアクショニズム のつながり

11月8日(日)午前(ブロック⑧)

〔司会〕加藤百合、桜井厚二、上田洋子

A17 坂中紀夫:推理作家ロマン・キムと主体性の問題

A18 南平かおり:児童文学者としての秋田雨雀とロシア 文学~童話にみるトルストイの作品の影響~

C04 内田健介:小山内薫はスタニスラフスキー・システムの受容者だったのか?

C05 松枝佳奈: 大庭柯公 (1872-1922 頃) と第一次世界 大戦下のロシア-従軍ロシア人作家・ジャーナリストたち の視点から

第3会場:7日午前・午後,8日午前

2階12番教室

11月7日(土)午前(ブロック③)

[司会] 乗松亨平、宮川絹代

A04 高田映介: チェーホフの創作におけるダーウィン進 化論の影響

A05 田子卓子: ブーニン『スホドール』における語りの 可能性

A06 林由貴:イワン・ブーニンにおける「帝国」と「言語」

11月7日(土)午後(ブロック⑥)

[司会] 望月恒子

P01 望月恒子, 諫早勇一, メリニコワ・イリーナ, 澤田和彦, 大野斉子: 在外ロシア文化と同時代の世界

11月8日(日)午前(ブロック⑧)

[司会] 三谷恵子

P02 服部文昭、三谷惠子、三浦清美:中世スラヴテクスト研究の新たなアプローチ

11月8日(日)午前(ブロック⑩)

[司会] 古賀義顕

B04 丸山由紀子:ロシア語文献における第2次南スラヴの影響をめぐって―パホーミイ編集『ラドネシのセルギイ伝』を資料として

B05 コベルニック・ナディヤ:ロシア語における基動詞 への-sya 接辞の付加基準について

第2回日本ロシア文学会大賞受賞記念講演

11月7日(土)15:40-16:40 総合研究棟1階シアター教室 吉岡ゆき氏: 私とロシア語

3. 総会議事録要旨

〔議長: 大西郁夫, 松本隆志, 青木正博〕

(1) 第12回日本ロシア文学会賞表彰

本年度の学会賞を本田晃子氏(著書部門)小俣智史氏(論 文部門)に決定したことが報告(浦雅春委員長の資料文書 を会長が代読) され、、両氏へ会長より賞状が贈呈された (副賞は式の後に贈呈された)。

(2)議長団選出

(3)会務報告

事務局より会員異動(2014年11月~2015年10月)について報告があり承認された。また賛助会費(7社)、維持会費の納入(23名)について資料に沿って報告された。

(4)各種委員会報告

各委員長により今年度の活動の報告が行われた。

(5) 2014/2015 年度決算および会計監査報告

事務局より 2014/2015 年度決算案について資料に沿って 説明があり、拍手で承認された。

(6)2015/2016年度予算案について

事務局より 2014/2015 年度の予算案が資料に沿って説明 され、拍手で承認された。

(7)2016年度大会について

2016 年度大会は北海道大学で行われることが事務局から報告された後、担当校の望月恒子氏より挨拶があった。

(8)新役員および新委員について

望月会長より資料に沿って新役員、新委員が紹介された後、 拍手で承認された。

(9)その他

沼野前会長により ICCEES 幕張大会の総括がなされ、日本ロシア文学会の協力に対し謝辞が述べられた。

4. 会員異動 $(2015 年 10 月 \sim 2016 年 7 月)$ 並びに維持会費納入者 (敬称略)

入会者

ダツェンコ・イーホル (中部)、兎内勇津流(北海道)、コックリル浩子(中部),溝渕園子(関西),恒任翔吾(関東)、中野悠希(関西)、安野直(関東)、畔柳千明(関東)、後藤雄介(関東)、宮内拓也(関東)、細川瑠璃(関東)

退会者

林田理恵(関西)、高橋清治(関東)、大木昭男(関東)、 大竹由利子(関東)、飯島康夫(関東)、白倉克文(関東)、 吉住オリガ(関東)、Ivona Malerova(海外)

休会者

エブセエバ、エレナ (関西)

維持会費納入者

諫早勇一(2口)、鈴木淳一、望月哲男(5口)、佐藤純一(2口)、相馬守胤、栗原成郎、佐藤靖彦、前田和泉(2口)、三谷惠子、沼野充義(2口)、中條直樹(2口)、中村泰朗、野中進、和田芳英(2口)

日本ロシア文学会

2014/2015 会計年度決算報告 (2014 年 9 月 1 日~2015 年 8 月 31 日) 2015/2016 会計年度予算案 (2015 年 9 月 1 日~2016 年 8 月 31 日) (2015 年 11 月 7 日総会承認)

I 経常費

収入の部	2013/2014 年度予算	2013/2014 年度決算	2014/2015 年度予算	備考
前年度からの繰越金	3,783,087	3,783,087	4,619,801	
利息	800	576	500	前年度実績
学会費	3,500,000	3,561,000	3,200,000	
入会金	10,000	9,000	9,000	前年度実績
賛助会費	60,000	68,000	60,000	過去4年間平均
雑収入	2,500	0	1,000	過去4年間平均
特別収入	0	38,704	0	
合計	7,356,387	7,460,367	7,890,301	

支出の部	前年度予算	前年度決算	今年度予算	備考
大会準備費	400,000	233,488	400,000	埼玉大学
学会誌制作費	656,910	656,910	798,012	本年度請求額
交通費	1,000,000	951,580	1,030,000	過去4年間平均
事務手当	200,000	105,000	0	事務委託の開始により 項目廃止
事務委託料	0	0	300,000	学会事務代行
事務費	200,000	172,414	200,000	謝礼 (編集・広報)、文 具費、理事会補助など
広報委員会	15,499	15,428	15,428	レンクルサーバー代(前年度実績)
マプリャール会費	21,000	25,022	25,000	200 ドル
JCREES 会費	30,000	0	30,000	例年実績
学会賞	100,000	100,000	100,000	例年実績
通信費	400,000	254,722	250,000	前年度実績
印刷費	400,000	268,528	400,000	大会資料集、名簿含む
会合費	10,000	6,306	9,000	過去4年間平均
事業費	100,000	51,168	100,000	
特別会計に振替	0	0	500,000	
予備費	3,822,978	0	3,732,861	
次年度への繰越金	0	4,619,801	0	
(小計)	3,822,978	4,619,801	3,732,861	
合計	7,356,387	7,460,367	7,890,301	

特別会計(2015/2016年度予算)

収入の部		支出の部		備考
振替 (一般会計)	500,000	学会費補助	36,000	前年度実績
前年度からの繰越金	2,504,018	事業費	250,000	国際交流助成制度
維持会費	200,000	学会参加者旅費補助	87,480	本年度請求額
利息	600			
合計	3,204,618	合計	373,480	
		残高	2,831,138]

Ⅱ 基金 (2014/2015 会計年度決算報告)

\			
1. 学会基金	前年度決算	今年度決算	備考
元本	2,525,327	2,525,831	信託銀行定期預金(2009.3.23 に預け替え)
利息	504	504	2015年3月23日現在
計	2,525,831	2,526,335	
2. 学会国際交流基金(注1)			2007年2月20日に満期預け替え
元本	1,054,872	1,058,802	定額郵便貯金
利息	3,930	2,824	8月31日現在証明額
計	1,058,802	1,061,626	(注 2)

注1: 日ソ文学シンポジウム基金は 2008/2009 年度より学会国際交流基金に名称変更

注2:特別事業基金は2012年10月12日に定期貯金を解約し、1,510,792円を特別会計に振り替えた。

(2015年9月16日,18日監査報告 監事:源貴志、寒河江光徳),

委員会活動記録

■大賞選考委員会

沼野 充義

今回で 3 回目を迎える日本ロシア文学会大賞について は、推薦を2015年10月2日から受け付け、実施細則に基 づきいったん12月31日に締め切ったが、有効な推薦が得 られなかったため、さらに受付期間を1月末日まで延長し た。その結果、計6件の推薦があり、それを受けて2016 年4月24日に選考委員会を開催し、全会一致で諫早勇一 氏(同志社大学名誉教授、現在名古屋外国語大学中央図書 館長・教授)を大賞候補者として推挙することに決定した。 さらにこの結果を2016年7月24日に開催された理事会に 報告し、正式承認を得た。授賞理由は諫早氏が(1)ロシ ア文学の先駆的研究、(2)大学におけるロシア語教育発 展への寄与、(3) 学会運営の革新と充実、という三つの 面のすべてにおいて多大な貢献をあげ、同僚たちを鼓舞し、 後進の世代にとって輝かしい導きの星となってきた、とい うことである。詳しい選考結果報告については、『ロシア 語ロシア文学』48号を参照していただければ幸いである。

■学会賞選考委員会

大石 雅彦

学会賞選考委員会は2016年1月から6月にかけて選考作業を行った。6月4日に開かれた選考委員会において候補作を審査・選考した結果、著書では大野斉子『シャネルNo.5の謎――帝政ロシアの調香師』(群像社、2015年)が、論文では竹内ナターシャ「ソログープ『光と影』における影絵遊びとしての「演劇」の役割:「子供」と「変容」のテーマの繋がり」(『ロシア語ロシア文学研究』第47号掲載)が受賞作に決定した。詳しくは『ロシア語ロシア文学研究』第48号をご参照ください。

■広報委員会

古賀 義顕

広報委員会では従来どおり学会ホームページの管理・運営を行ない、学会員への情報提供に努めた。今年度の新しい動きとしては、2015 年 12 月にサイトのソフトウェア NetCommons のアップデート (2.3.0.0 から 2.4.2.1 へ)を行うとともに、「学会カレンダー」(学会関連その他の催し)を設置して情報の共有の便宜を図ったことがあげられる。その他、関西支部報が 2016/2017 年度第 1 号よりサイトに掲載される予定である。2015 年 8 月 1 日から 2016 年 7 月 31 日までのホームページ更新件数は次の通り:ロシア関連書籍情報は10件、カレンダーへの記載は51件、その他、学会からのお知らせと掲載依頼情報は75件。

■国際交流委員会

前田 和泉

- 1. 2016年5月30日を締切として、「国際学会等での報告に関する助成」と「公開研究会・(ミニ)シンポジウム等の実施に関する助成」の申請を募集し、委員会の審議を経て、前者5件、後者2件を理事会で採択した。助成該当者による国際学会の報告・印象記などは、学会ホームページに順次掲載の予定。
- 2. 2015 年度全国大会で試行された「国際参加枠」を今年 度も継続。2016 年度全国大会には 8 名のエントリーがあ

った。

3. 海外で開かれる国際会議・シンポジウム・セミナー等の情報を、広報委員会の協力を得ながら、学会ホームページに随時掲載している。引き続き学会員には、定期的に学会ホームページを閲覧されるとともに、国際会議などの情報があれば、国際交流委員会もしくは広報委員会までお知らせ願いたい。

■ロシア語教育委員会

柳町 裕子

今年度は委員会単独での活動はないが、日本ロシア語教育研究会と連携してロシア語教育関連の情報交換につとめている。12 月には同研究会が準備をすすめているロシア語教育に関する研究集会とイベントを共催する予定である。

支部活動記録

■北海道支部

2016 (平成 28) 年度日本ロシア文学会北海道支部支部会 (運営委員会、研究発表会、総会)

2016 年 7 月 2 日 北海道大学、人文・社会科学総合教育 研究棟 W408 号室

運営委員会: 平成 27 年度会計報告。北海道大学での全国 学会開催について。その他。

研究発表会

植木健二〈北海道大学大学院文学研究科博士課程〉『検察官』と古典主義演劇の関係(司会:飯田梅子)

神竹喜重子〈北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター非常勤研究員〉モノ・オペラ『アンネの日記』―ナチス時代の少女を描く「現代音楽」(司会:字佐見森吉)

塚田力〈通訳業〉アルゼンチンの古儀式派作家 D. ザイツェフによる『ダニール・テレンチェヴィチ・ザイツェフ自伝』出版をめぐって(司会:大西郁夫)

梅村博昭〈所属なし〉«История советской фантастики» Р.С. Каца. Ее литературное значение и отзвуки (ロシア語) (司会:佐藤亮太郎)

総会

1.平成27年度活動報告(理事会および北海道支部)

2.平成 27 年度会計報告

3.その他

支部事務局の体制

支部長:岩本和久

事務局担当:大西郁夫

住所: 060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目 北海道大学文学研究科 大西研究室気付

Tel:011-706-4090 Mail:ions@let.hokudai.ac.jp

■東北支部

2016年度研究発表会

2016年7月2日(土) 岩手県立大学アイーナキャンパス 研究発表:

1. 堀口大樹 (岩手大学) 「借用語の動詞に付加される 接頭辞 BЫ-」 2. 柳田賢二 (東北大学)「言語接触による単一言語話者の母語の変化——中央アジアロシア語の変化の過程 と様能」

3. 木村崇「チェーホフの短編『賭け』添削の体験から」

2016年10月以降の支部長名・支部事務局連絡先

支部長:長谷川章

事務局担当:川辺博

住所: 〒981-3213 仙台市泉区南中山 5-5-2

聖和学園短期大学 川辺研究室気付

電話 022-376-8270 (川辺直通)

ファクス 022-376-3155 (共用)

E-mail kawabe@seiwa.ac.jp

■関東支部

1. 『関東支部報』33 号発行

2015年10月15日

2. 2016 年度研究発表会

2016年6月4日(土) 早稲田大学戸山キャンパス 36号館 681 教室

研究発表

ナザランカ・カチャリーナ(東外大院)ジェンダー的視点 から見たトルストイと有島――『アンナ・カレーニナ』 と『或る女』を中心に(司会: 覚張シルビア)

安野直(早大院)リュドミラ・ウリツカヤ短編作品群における国家と性の表象(司会: 沼野恭子)

五月女颯(東大院)イリア・チャウチャワゼの「グルジア」 (司会:八木君人)

阿佐遼平(東大院)『婚礼』と"ポーランド人"の民族性 ---エスニックな感情の源泉と行方(司会:小椋彩)

木原槙子(東大院)ポーランド・ロマン主義における「バラードマニア」――バラード論争とレノーレ譚(司会: 鳥山祐介)

畔栁千明(東大院)北京宣教団とイアキンフ・ビチューリン (司会:三浦清美)

早川萌(東大院)画家イリヤ・レーピンの滞仏期作品を再評価する試論(司会:上野理恵)

細川瑠璃(東大院)フロレンスキイの天動説――無限と不連続性を中心に(司会:貝澤哉)

宮内拓也(東外大院 / 国語研) ロシア語名詞句の統語構造と名詞句内の要素の語順(司会:堤正典)

阿出川 修嘉(東外大非常勤講師) 現代ロシア語における モダリティとアスペクトのカテゴリーに関する一考 察:可能性のモダリティと体のカテゴリーの相関関係に ついて(司会:朝妻恵里子)

3. 運営委員会

2016年4月2日(土)に早稲田大学(戸山キャンパス)にて開催し、今期の支部運営体制や研究発表会等について検討した。

4. 2016 年度第 1 回総会

2016年6月4日(土)早稲田大学(2016年度日本ロシア文学会関東支部研究発表会の会場で開催):

- ① 報告事項 (1) 活動報告, 2. 2015 年度会計報告
- ② 審議事項 特になし。

5. 今期の体制

支部長 伊東一郎

事務局長 野中進

事務局住所 338-8570 さいたま市桜区下大久保 255 埼玉大学人文社会科学研究科 野中研究室内 (nonaka@mail.saitama-u.ac.jp)

■中部支部

2016 年度総会·研究発表会

2016年7月9日 於 中京大学名古屋キャンパス 研究発表

ダツェンコ・イーホル: ロシア語及びウクライナ語に於ける接頭辞を持つ я-ть 動詞のアクセント法について コルコ・マリア: 島村抱月の『復活』について 総会

- ① 2015 年度活動報告
- ② 2015 年度会計報告
- ③ 2016 年度活動案

支部長・事務局長: 郡伸哉 事務局住所: 〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町 101-2 中京大学国際教養学部 郡伸哉研究室気付 Tel. 052-835-7111, Fax. 052-835-7197 rosiabungakukai.chubu@gmail.com

■関西支部

1. 秋季研究発表会・総会

2015年12月12日(土) 関西大学

◇研究発表

木寺律子 [同志社大学非常勤講師]:『罪と罰』におけるドイツのイメージ(司会:国松夏紀)

池田有里〔大阪大学大学院〕: イラストや映像を用いたロシア語の授業の試み(司会: 楯岡求美)

池坂麻記 [大阪大学大学院]:メイエルホリド作品における笑いとメロドラマ(司会:楯岡求美)

◇特別講演

佐藤昭裕 [京都大学名誉教授]: 『過ぎし年月の物語』における指示代名詞 s ь、on ъ、t ъ について(司会: 岡本崇男) ◇総会

①事務局担当者の承認 ②会員の異動 ③理事会・全国総会報告 ④決算報告と予算案の承認 ⑤役員選任規定の改定と支部大会規定の制定の予告 ⑥時期当番校

- 2. 『関西支部会報』2015/2016 年度 第 1 号発行 2015 年 2 月 15 日
- 3. 春季研究発表会・総会

2016年6月11日(土)神戸市外国語大学に隣接する大学 共同利用施設 UNITY

◇研究発表

中野悠希 [京都大学大学院]:ロシア語の斜格形で表される「主体」について:前置詞句 "y+生格"の考察を中心に(司会:服部文昭)

坂中紀夫 [同志社大学]: H・シパーノフと移動する探偵: ソ連のシャーロック・ホームズの困難(司会:宮風耕治) 松下隆志 [日本学術振興会/京都大学]: 現実の劇場化から 劇場の現実化へ:パーヴェル・クルサーノフ『死せる言語』 をめぐって(司会:中村唯史)

木本麻希子 [神戸大学]:セルゲイ・プロコフィエフの音楽の暗号と芸術性:《ピアノ・ソナタ》におけるラインとコードのアナグラム(司会:清水俊行)

◇総会

①会員の異動 ②理事会報告 ③役員選任規定改正の承認 ④支部の刊行物に適用される著作権ポリシーの承認

⑤支部会報公開の承認

4. 『関西支部会報』 2015/2016 年度 第 2 号発行 2016 年 7 月 15 日

支部長:岡本崇男事務局:藤原潤子

〒651-2102 神戸市西区学園東町 9-1

神戸市外国語大学 藤原潤子研究室気付

■西日本支部

2016年度総会・研究発表会2016年6月11日 於 九州大学博多駅オフィス

研究発表

太田丈太郎「米川正夫のブブノワ宛書簡」 西野常夫「「カラマーゾフの兄弟」のドミートリイと「懲役人の告発」の主人公の獣性について」

総会

- 1. 2015 年度活動報告
- 2. 2015 度会計報告
- 3. その他

日本ロシア文学会 第 66 回大会資料集 2016 年 10 月 1 日発行 発行者 日本ロシア文学会 望月哲男 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学文学部

鳥山祐介研究室内 日本ロシア文学会事務局 URL: http://yaar.jpn.org/